

裾野の

石造物

上



茶畑 願生寺・唯念名号塔



深良 日蓮上人車返靈場・弁財天



茶畑 滝頭不動堂・寝釈迦

例言

一 本書は裾野市史編さん事業の一環として行われた、石造物悉皆調査の報告書、全二巻のうちの上巻であり、裾野市の東部八地区（岩波・深良・久根・公文名・稲荷・茶畑・平松・麦塚）が調査対象となっている。なお深良地区は広範囲であり、石造物の数も多いので便宜上地区を二分し、深良新田・上原・原・上丹・須釜・湖尻峠を「深良Ⅰ地区」とし、他の地域を「深良Ⅱ地区」として報告した。

二 石造物のうち墓塔、屋敷神、個人の信仰に属するものは除き、民間信仰に関係するものを調査対象とした。ただし一部調査を実施、報告してあるものもある。

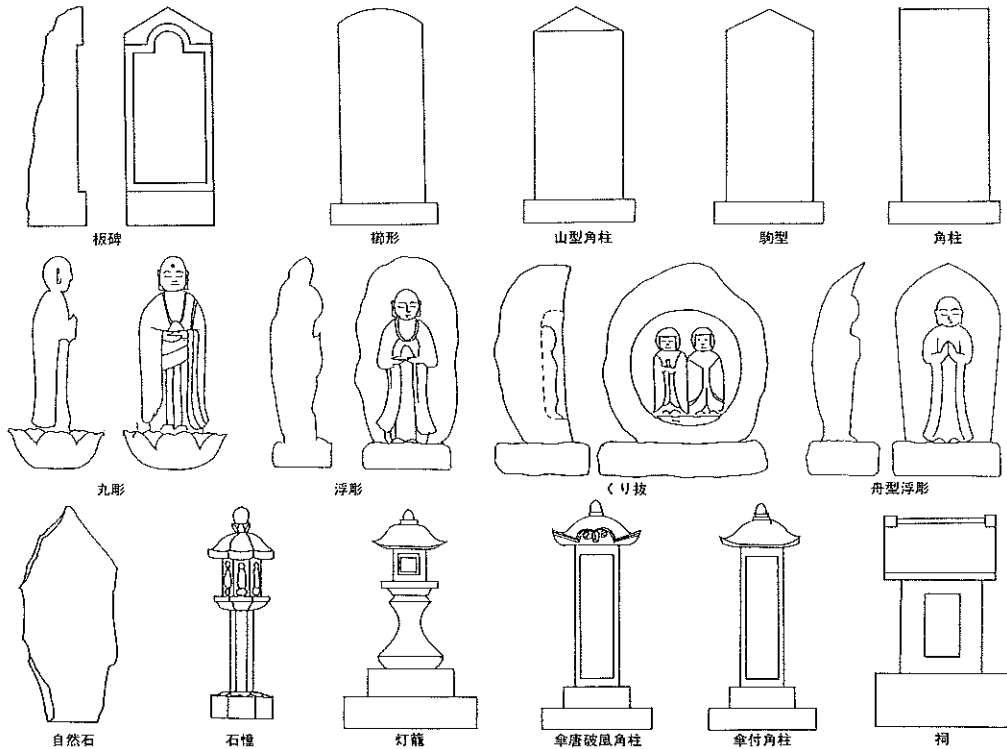
三 石造物調査表・個別写真に付されている番号は、各地区の石造物分布地図中の「●」の中の番号を示す。ただし、「5-2」のような枝番をもつものは、「⑤地点の2番めの石造物」を意味する。枝番は原則として右から左、手前から奥の順に付されている。

四 石造物調査表の「種類」とは、石造物の「名称」もしくは「分類」を意味し、石造物を建立するものになった。信仰内容が判明するものは極力それによって分類し、信仰内容が不明なものは、像容・形態の面から石造物を分類した。

五 形状として示した主要なものは下図の通りである。

六 法量は全高×全幅とし、cm以下は四捨五入した。

七 調査表の銘文欄の（正）は正面を、（右）は向かって右側面、（左）は左側面、（背）は背面、（台座正）は台座の正面を意味する。



八 銘文は原文を記録した。ただし旧字体については固有名詞以外は
一部新字体で記録した。異体字・略字等についても利用の観点
から常用漢字に改めたものもある。

九 同一石造物に二つ以上の異なる信仰内容が記されている場合、
その石造物の種類(名称)は正面の銘文右側にある信仰内容を
もとに分類した。また、年号が二つ以上あるものについては、造立
年の古いものを記入した。

十 裾野市の巡礼巡拝供養塔は、その大半が「順礼」「順拝」のよ
うに刻されていることから、本書でも「順礼順拝供養塔」と表記
した。またその特徴をより明らかにするため、観音信仰にもとづ
くものを「順礼供養塔」、善光寺や四国八十八カ所巡りなど観音
信仰以外のものを「順拝塔」として区分した。調査表の順礼供養
塔のうち「(西)」と表記されているものは西国三十三カ所順礼の
意味であり、同様に「(坂)」は坂東、「(秩)」は秩父、「(横)」は横道
の各三十三カ所(秩父は三十四カ所)順礼を表している。また順
拝塔(善)は善光寺(四)は四国八十八カ所、(湯)は湯殿山大
権現の各順拝を表している。

十一 灯籠は地方的特徴をもつ秋葉信仰に関係するものは「秋葉山供
養塔」とし、常夜塔と刻銘のあるもの以外は石灯籠として分類し
た。

十二 信仰面から分類した石造物のうち、像容をもつものは備考欄に
その像容を記した。

十三 調査は昭和六十三年から平成六年にかけて、中野国雄専門委員
のもと、石田義明、瀬川裕市郎、杉村 斉、井口俊靖、岩田重則、
松田香代子、伊東誠司の各調査員を中心に山本けい子他市史編さ

ん室ならびに裾野高校郷土研究部など後述する方々が協力して
行った。

十四 写真、図版は永野武信が担当した。

参考文献

- 「日本石仏事典」 庚申懇話会 雄山閣 平成五年
「石仏図典」 日本石仏協会 雄山閣 平成三年
「裾野市の石造物」 飯塚良之 平成二年
「庚申塔アラカルト」 安田 弘
「太平記の古戦場を訪ねて―十三塚めぐり」 芹沢 充寛

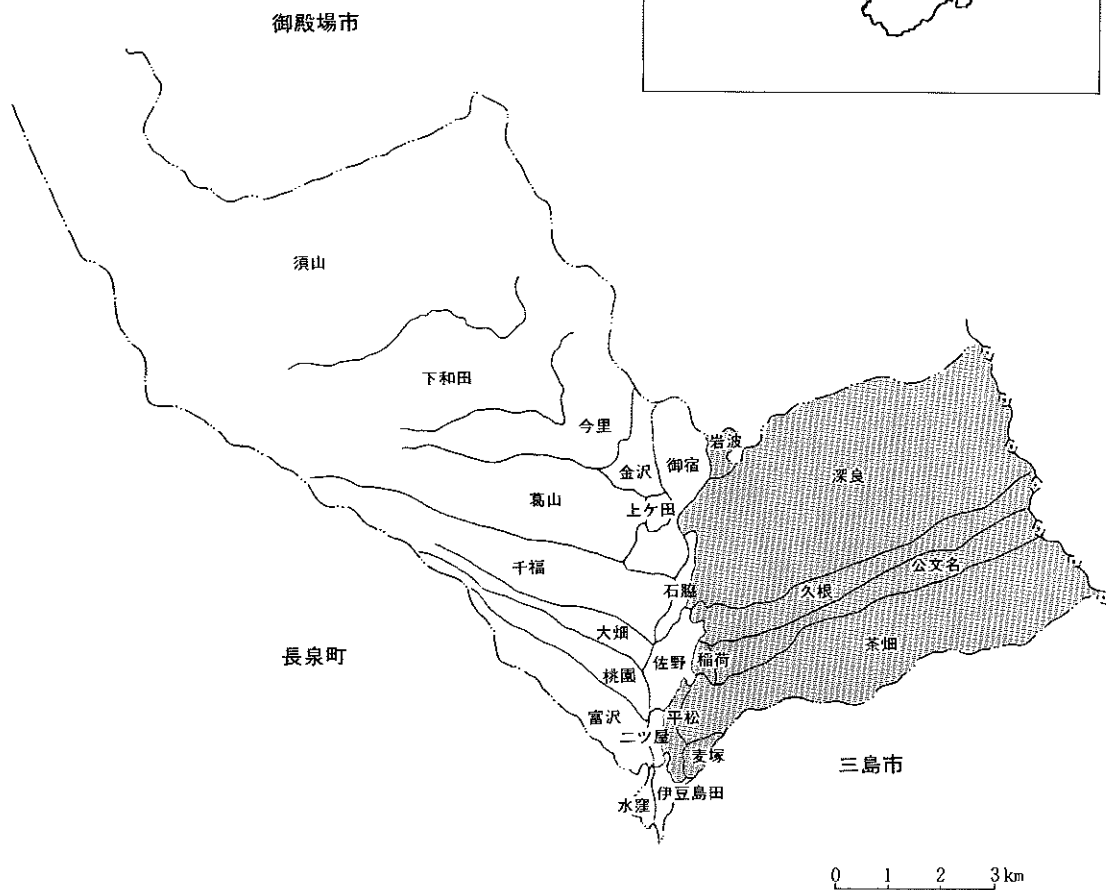
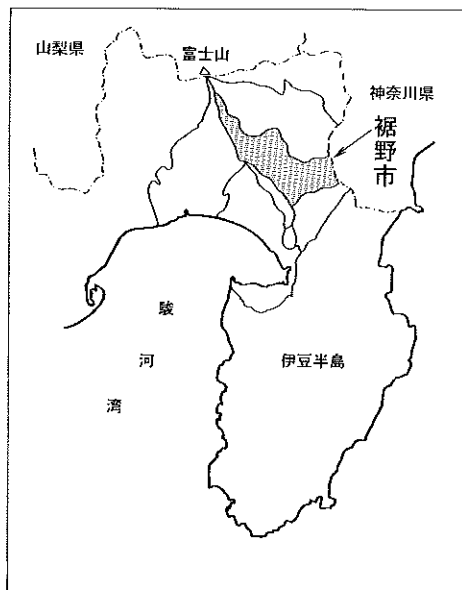
目次

例言

一 裾野市東部の位置図と地区名	1
二 裾野市東部地区の概要	1
三 調査地区	
(一) 岩波地区	
石造物の分布図	6
石造物写真・図版	7
石造物一覧表	11
(二) 深良地区(Ⅰ)	
石造物の分布図	18
石造物写真・図版	19
石造物一覧表	39
(三) 深良地区(Ⅱ)	
石造物の分布図	64
石造物写真・図版	65
石造物一覧表	89
石造物点描	115
(四) 久根地区	
石造物の分布図	118
石造物写真・図版	119
石造物一覧表	133
石造物点描	147
(五) 公文名地区	
石造物の分布図	152

石造物写真・図版	153
石造物一覧表	167
(六) 稲荷地区	
石造物の分布図	182
石造物写真・図版	183
石造物一覧表	185
(七) 茶畑地区	
石造物の分布図	189
石造物写真・図版	191
石造物一覧表	221
石造物点描	255
(八) 平松地区	
石造物の分布図	260
石造物写真・図版	261
石造物一覧表	269
(九) 表塚地区	
石造物の分布図	278
石造物写真・図版	279
石造物一覧表	283
四 統計表	287
五 石造物の種類別解説	289
六 字体について	303
七 裾野の石造物の周辺(信州高遠石工と民衆の心)	304
八 編集後記	308
九 裾野市史編さん室関係者名簿	309

裾野市(東部)の位置図と地区名



裾野市東部地区の概要

裾野市内の石造物報告書上巻に集録した地区は、市の中央部から東方の箱根山麓にわたる旧深良村と同泉村の岩波、深良、久根、公文名、稲荷、茶畑、平松、麦塚地区である。

この地域は箱根外輪山の三国山から西ないし西南方向に枝状に分れた尾根末端の山麓地帯に当り、北から深良川と沢谷の水をあつめて流れる泉川や入田川などが沖積した入谷状、盆地状の僅かな平地が開けている。この西側の中央部分はかつて富士山から噴出した厚い溶岩流に覆われ、その上にいまから二八〇〇年前から二七〇〇年前にかけて流出したという御殿場土石流が堆積し、これによって埋没した埋れ木が深良で偶然の機会に見えられている。深良の高雄山や茶畑の道場山は、かつて箱根外輪山の尾根の稜部であったのが、溶岩流によって箱根山塊から切り離され独立丘となったものである。また溶岩流の背部は現在でも地表のところどころに露出し、寺社の境内や墓地などに利用され、カシやケヤキの大木が生茂り格好の緑地となっている。

山麓末端の尾根上には平坦な台状地形をなしたところがあり、このような地形をした公文名屯屋敷、同丸山、同相生原、深良城ヶ尾などからは、日本の旧石器時代の石器が発見されている。また同じような地形をしたところには縄文時代の遺跡が十数カ所もあって、特にその中で屯屋敷や道場山は遺跡の規模が大きく、豊富な遺物を出土した縄文時代の代表的な遺跡であったが、道場山は近年の住宅開発によって殆どは消滅している。

公文名丸山遺跡から出土した少量の条痕文系土器によって、弥生時代になり、米作りを伝えた人々の僅かな足跡が判ったが、これ以後のこの時代の遺跡や遺物は殆ど皆無に近く実態は明らかでない。次の時代に作られた須恵器や土師器の散布地から、四世紀代になつてようやく深良川や泉川の流域に人々が住みついたと思われる。このなかで平松十三塚や中丸古墳は記述された内容や遺物からみて、六世紀後半から七世紀代のこの地域の人々の墓で、古墳時代後期の古墳群といわれるものである。この古墳群の分布のあり方をみると長泉町の土狩古墳群に連続しており、後に新しく成立した伊豆国の領域に属するのではないかと考えられるが、古い文献からの類推では駿河国駿河郡であったと考えられる。しかしどの郷里に属していたのかは明らかでない。また深良上ノ原遺跡は出土した土師器からみて奈良時代末から平安時代初め頃の集落跡で、特に墨書土器から古代足柄路に関係する遺跡ではないかと考えられている。

平安時代末頃から鎌倉時代にかけて、深良を中心として大森氏が現れてくる。出自を藤原氏とし深良大森に土着して大森氏と称するが、その中核となった地区は大森氏ゆかりの西安寺、興禅寺を中心とする切久保、市場、和田、堀之内、南堀、町田などの一帯であつたらしい。これらの地名はまた中世的色彩の強い地名である。これより南の久根、公文名、茶畑、麦塚から三島市伊豆佐野にかけては、この頃、佐野郷といひ鎌倉時代末には執権北条氏の一族大仏貞直の所領であったと考えられる。佐野郷は南北朝から室町時代にかけて鎌倉の円覚寺領であったが、やがて土着の豪族大森氏の手に移り、さらに大森氏一族の葛山氏領になっていったことは、円覚寺文書や当時の文献で明らかとなっている。佐野郷の公文名はこの頃に関連

する地名ではないかと考えられ、ここには比較的時代の古い大形の五輪塔や宝篋印塔がある。戦国時代になるとこの両郷とも葛山氏領となるが、葛山氏の後退と共に小田原後北条氏の支配下となり、配下の清水氏に与えられるが、天正十八年（一五九〇）の小田原征伐以後、徳川氏の手に移ったと考えられる。

近世の初期は幕府領であったが、若干の変動があった後に小田原藩領に編入された。この地域がなぜ足柄や箱根を越えた向う側の小田原藩領になったのか理由は明らかでないが、中世以来からの北条家領、円覚寺領の佐野郷といい、深良から出て小田原城主になった大森氏、葛山氏後退の跡は後北条氏支配領となったこともあって、昔から伝統的に鎌倉府や特に小田原とは関係が深かったことがあげられるのではなからうか。このことは、やがて始まる深良用水開削の事業とも関連していると考えられる。

近世初期の村々は、中世以来の形態を残しながら近世の村落に移行していったのであるが、その状況を生産高でみると、深良村では田二一七、三九七石、畑五八四、九〇八石で畑作が圧倒的に多い。この理由は稲作に必要な灌漑用水の源となる深良川の水量が少なく、沢の出口の須釜と切久保以外は、平地を深く穿った溪流で、この間に取水する個所がなく、また泉川も水量は豊富とはいええず、城ケ尾の下で取水できるほかは山脚部を穿って流下している。したがって、水田が開けていたところは、須釜のごく一部と堀之内の南、切久保から市場、和田、町田の東側あたりであったと思われる。以上のようなことから深良村の名主大庭源之丞が深良用水開削に積極的になっていった理由も納得できる。

次に旧佐野郷のうち久根、公文名、茶畑の三村をみると、久根は

田八六、八六三石、畑一七八、一二九石、公文名は田一一六、六六九石、畑三三二、九五二石、茶畑は田四〇四、三三七石、畑四〇四、〇六八石（共に稲荷、平松分を除く）で、久根、公文名とも畑が多いが、茶畑の水田高が多いのは入田川流域の水田が広いことによる。

寛文六年（一六六二）から始まった画期的な深良用水の開削工事は、新川堀の工事を含めて寛文十一年（一六七二）にはほぼ終了する。この結果、各村々の変化を総水田高に対して深良用水掛水田高の占める割合でみていくと、岩波村は一〇〇%で、このうち畑成田つまり畑であったところを田にした割合は三〇%、残り七〇%はまったく新しく開発した水田である。深良村は八〇%、このうち畑成田は二四%、新田が五四%、久根村は七三%、このうち三五%が畑成田で新田が三八%、以下、公文名村の用水掛は五六%、稲荷が一〇%、茶畑三一%、平松一〇%、麦塚二三%で、これらはすべて畑成田で新田はないのが特色となっている。以上をまとめると岩波ほか八ヶ村の畑のうち七〇%が水田となり、いわゆる田場所の村々に変貌していったのである。

深良用水の開削と直接関係があるかどうかは明らかでないが、湖水の通水が成功する寛文十年以後、墓塔以外の野外石造物が次々に建てられていく。このなかで岩波で寛文十年、深良では天和三年（一六八三）、公文名では貞享二年（一六八五）、久根では元禄十六年（一七〇六）にそれぞれ巡礼供養塔が建てられる。これは村々の観音信仰の集団が観音菩薩をまつる各地の霊場に参詣した記念に建てたものであるが、この霊場を集団でめぐり歩く行動は、また一種の心を安める集団娯楽旅行と考えてもよく、このことから地域の人々の生活が着実に豊かになっていった様相を示していると考えて

よからう。

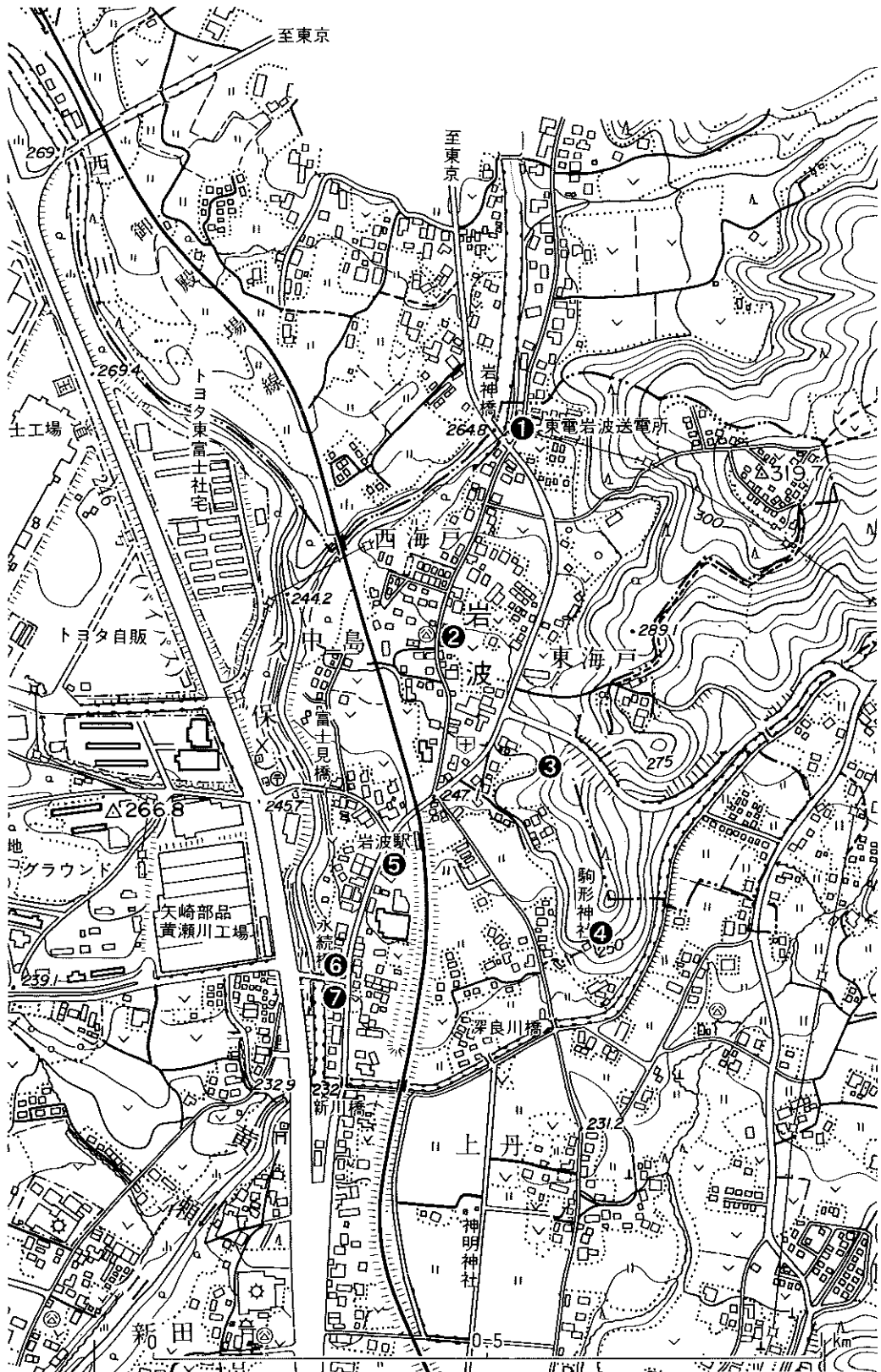
以後、この地域の人々は宝永四年（一七〇四）の大地震や富士山の噴火などの大きな災害を何度か受けるが、これらに関する記録が殆どないのは、被害が少なかったのか、或いは短時間に復興しているのではないかと思われる。明治維新以後、裾野市東部のこの地域は、深良村、泉村の二村に編成され、鉄道も開通して近代化の方向へ進むのである。

（中野 国雄）

参考・引用文献

駿河記、駿國雜誌、裾野市史第一巻資料編考古、同第六巻資料編
深良用水、「茶畑の民俗」裾野市史調査報告書 第四集、「深良
用水の沿岸」静岡県芦湖水利組合

岩波地区



岩波地区



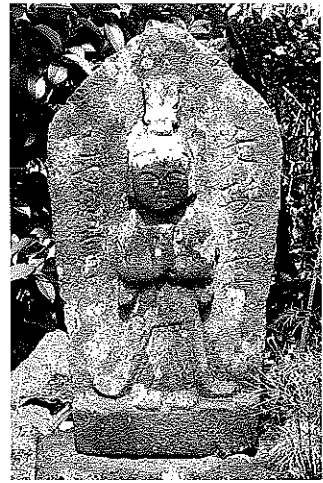
1 岩神橋付近



1-3 庚申塔



1-2 庚申塔



1-1 馬頭観音



1-6 順礼供養塔



1-5 順礼供養塔



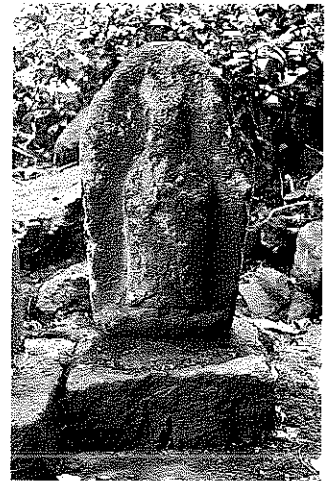
1-4 順礼供養塔



2-3 唯念名号塔



2-2 観世音菩薩



2-1 馬頭観音



2-5 道祖神



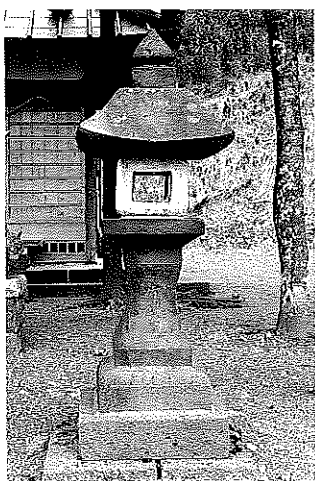
2-4 道祖神



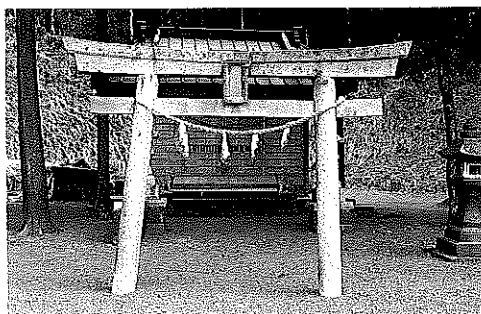
3 碑 (水道布設)



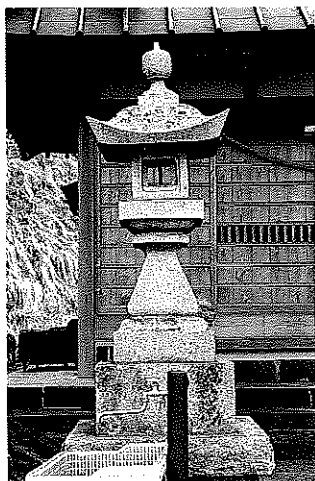
4 駒形神社



4-2 石灯笼



4-1 鳥居



4-5 石灯笼



4-4 石灯笼



4-3 手洗石



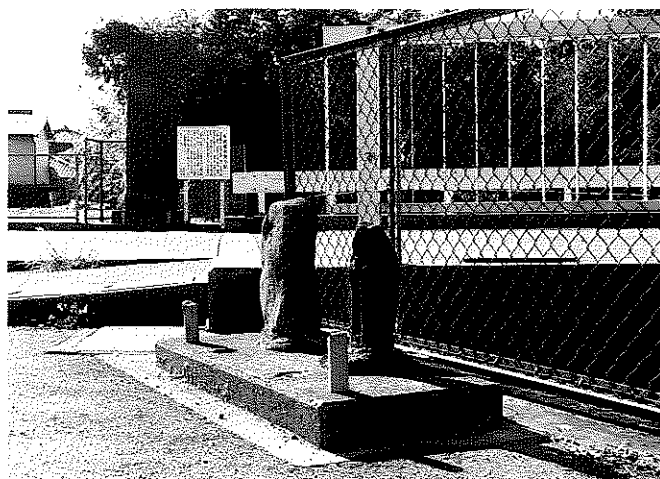
5 唯念名号塔



4-7 狛犬



4-6 狛犬



6 新川橋



7 碑（橋架設）



6-2 万靈塔



6-1 石造物（不明）

岩波地区石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
2-2	観世音菩薩	櫛型角柱	寛政12(一八〇〇)	89×24	(正)南無観世音菩薩 (右)寛政十二年 (左)申十一月十五日 (台座左)施主 (台座背)念仏講中 (台座右)拾四人	
2-1	馬頭観音	浮彫立像	嘉永7(一八五四)	59×26	(正)嘉永七年三月十七日 大庭政吉	(一部欠落・風化)
1-6	順礼供養塔	角 笏唐破風柱	寛文10(一六七〇)	165×49	別記4(14頁)	
1-5	順礼供養塔 (坂・秩・横)	角 笏唐破風柱	正徳3(一七一三)	195×56	別記3(14頁)	
1-4	順礼供養塔 (西・横堂)	角 笏唐破風柱	寛保3(一七四三)	144×46	(正)西國横堂 供養塔 (右)天下泰平 萬民靈楽 南無観世音菩薩 (左)願主 大庭大右衛門 前田四良兵衛 同内室 前田文内 榊権太良母 (背)寛保三癸亥十月吉日	
1-3	庚申塔	角 笏唐破風柱	宝永7(一七二〇)	129×45	別記2(14頁)	
1-2	庚申塔	角 笏唐破風柱	天和3(一六八三)	153×44	別記1(14頁)	(三猿浮彫)
1-1	馬頭観音	舟型立像	文政4(一八二二)	78×28	(正)文政四年 己七月吉日	

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
4-4	石灯笼	灯笼	昭和14(一九三九)	233×60	(正) 献燈 (背) 野重十二将兵一同 信陽縣城 大別山系 武寧縣城 昭和十四年七月 帰之	
4-3	手洗石	箱型	昭和8(一九三三)	46×58	(正) 奉納 昭和八年十二月二十五日 土屋かつ	
4-2	石灯笼	灯笼	文政5(二八二二)	200×72	(正) 奉献 御神燈 当村 氏子中 (背) 仰者や 恵もあ里て神迎 祀 楚石 □ (右) 文政五年壬午年十一月吉日	
4-1	鳥居	神明型	昭和15(一九四〇)	285×378	(正面額) 駒形八幡神社 (左柱背) 奉納紀元 千六百年記念 将兵一同	
3	碑(水道布設顕彰)	板石	昭和57(一九八二)	111×116	別記5(14頁)	
2-5	道祖神(双体)	舟型立像		84×43		
2-4	道祖神(双体)	浮彫立像		68×39		(風化)
2-3	唯念石塔	自然石	嘉永1(一八四八)	130×61	(正) 南無阿彌陀佛 唯念(花押) (背) 嘉永元年 申四月吉日 施主 多み講中	

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
415	石灯籠	灯籠	昭和12(一九三七)	238×61	(正) 献燈 (背) 野重十二将兵一同 (台座背) 戦歴 大場鎮 蘇州河 江陰縣城 南京城 鳳陽縣城	昭和十二年九月出発
416	狛犬			122×48	(台座背) 野重十二将兵一同	
417	狛犬			122×48	(台座背) 野重十二将兵一同	
5	唯念名尊塔	自然石		315×156	(正) 南無阿彌陀佛 天下和順 日月清明 念佛講中 唯念 (花押)	
611	石造物(不明)	浮彫立像	安政6(一八五九)	45×28	(正) 安政六未年 十九日 村中	(上部欠落)
612	万壽塔	自然石		52×26	(正) 三界萬壽塔	
7	碑(橋架設)	自然石	明治43(一九一〇)	277×100	別記6(15頁)	(中央部割れ目)

別記1 庚申塔

(正) 闊浮扶桑國 東海路駿陽 塔立面前境 群縣號岩浪

□□企願□ 清淨□入室 常住不斷行 累歲待庚申

(左) □□菩提泉 培善根無量 其德高□山 志□深似海

預到滿願時 新緑□□□ 住巷□石伏 □庚申容像

(背) □□正固而 □□壞時 □中財□少 □力積成功

因□干此而 踏□輪廻路 永得□全樂 二世共□□

(右) □□三惠道□ 得每漏大□

干時天和三癸亥年 霜月十五□

岩浪村 願主各各□首

別記2 庚申塔

(正) ○ 願巨轉眼羊夜天 〰 廓然真月幾十年

(左) 誰知一窺方斗内

(右) 修得積功幾的□ 加藤権右衛門 寺町傳兵衛

(背) 寶永七年 寅八月念七日 庚申供養之施主 大久庵

正寶院 大庭太右衛門 留兵衛 平四郎 庄兵衛

前田四郎兵衛

別記3 順礼供養塔 (坂・秩・横)

(正) 奉請觀世音菩薩

(左) 駿州御厨岩波村住人順禮坂東秩父并横道觀音之道場奉

祈現世安穩後生善所子孫繁栄今也功畢而記上十月日以

供養也 秩父 大庭文右衛門 同作右衛門

坂東 大庭留兵衛 寺町傳兵衛 前田庄兵衛

(右) 横道 大庭文右衛門室 同彦左衛門室 同作右衛門

前田庄兵衛室 大庭兵六衛門室 同清三郎

寺町傳兵衛室 同息女 鶴 土屋助左衛門室

高橋兵藏 下女 辻 華

(背) 正徳三癸巳年五月吉祥日 興禪寺現住自謙書

別記4 順礼供養塔

(正) 奉立塔順礼觀世音菩薩 具一切功德

慈眼視衆生 福聚海無量 是故應頂礼

龜女□丹女 柴女 □女三享 □□右衛門

(右) □尊妙□具□合堂明□禪子同日界

(左) 觀世音具足妙相尊偈合

(背) 干時寛文拾庚戌曆廿日 岩波村 施主母筆 敬白

別記5 碑 (水道布設顕彰)

(正) 顕彰碑 深良地域の村民に安全な飲料水を供給する

ため、時の村長小林聿氏が他の地域に先駆けて水道

の布設を企画し、村議会に諮って実施にうつした。

水源は神山地先で発見された湧水が用いられ、種々

の困難を克服し昭和八年遂に工事を完成して村内全

域に給水することができた。そこで、村民は水源発

見の契機となった噴上石を御神体として岩波の水槽

敷地内に水神社を建立した。以来四月十二日の例祭

には村民相寄り深良水道の恩恵に感謝し安全を祈願

してきた。

今深良水道布設五十周年を迎えるにあたり、記念の碑を建て、永くその偉業を讃えるものである。
昭和五十七年四月十二日。大庭景申撰文

別記6 碑（橋架設）

(正) 永續橋碑 永續橋架設河國國東郡國瀨川自深良以達富岡實稱一要路富士足國鷹諸溪流沓燈湊合地勢括水不太深而急湍奔注濺濺滄滄每遭霖雨水汎濫交通杜絕行旅病諸明初歲深良村兩小林氏等新架橋材皆用木欲改舊觀也爾來國運充展交頻繁人馬來往自永續橋者日加多焉若夫練兵大野原橋上電閃雷轟劍車轍絡繹不絕也於是兩小林松井井上諸氏謀日借使改舊觀寧取乎石材堅牢以萬世不朽之計村會議決乃請諸明治四十三年十月一日起工其歲十二月十八日告竣其結構拋崖壁以為而大石為之梁為之欄幅十尺闊四五尺拔水殆五仞望之穹隆為玉櫛狀實所罕觀也凡其費悉係於首者與有志者義捐蓋亦勤儉之所致而永益民如是其功豈鮮少也哉繫以蜂腰日施濃物乃限曾登古四邊爾往來能多免架計之此橋陸軍中將正四位二等功三級古川宣譽篆額 岳南儒居大國道撰并書

石工 湯山坊太郎

(背) 金百円深良村深良 金七千円小林理三郎
金六十円小林甚五郎 金五十円松井謙保
金四十円井上伴孝 全湯山半七郎 全土屋半治
全土屋又一 全土屋要作 全勝又勇藏 全勝又菊次郎

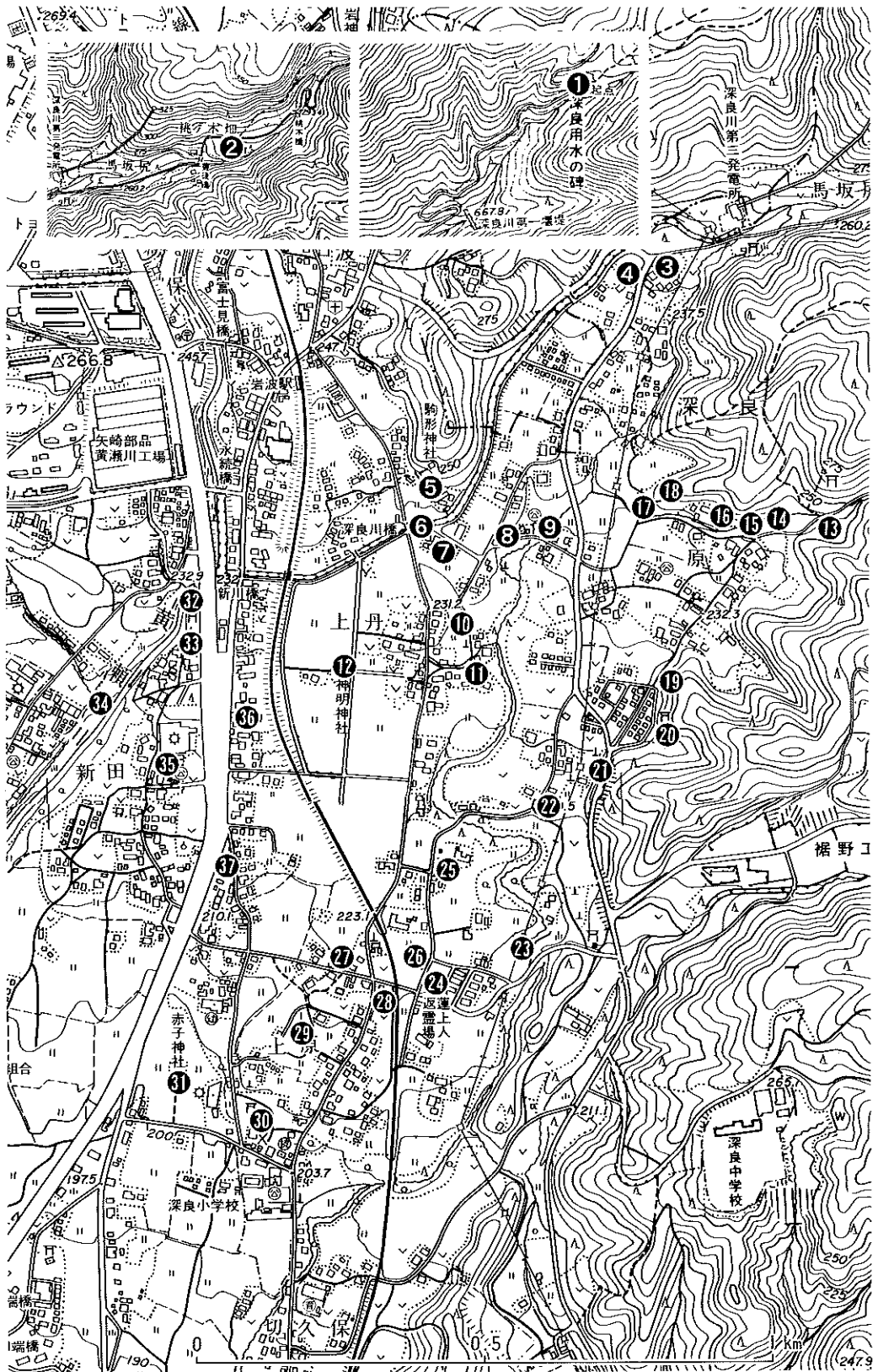
全勝又辰治 全小林熊次郎 全室伏熊太郎
全勝又源吉 全川村宗太郎 金三十五円高橋安太郎
金三十円土屋為三郎 全土屋民太郎
金二十五円勝又いち 金二十三円井上伊三郎
金二十円川口伊三郎 全川口庄太郎 全廣瀨彦平
全古田茂十郎 全勝又安藏 全小林義左
金三十円勝又嘉十郎 全廣瀨貞次郎 全勝又熊次郎
全渡辺又次郎 全小林久五郎 全前田淺藏
全井上直吉 全浮島餅藏 全杉本喜作 全杉本好藏
全土屋織作 全八木伊勢吉 全古田長三郎
全深良上原 金十五円井上佐太郎
金十三円四十錢大庭政次郎 全渡辺岩吉 全大庭武夫
金十二円勝又七藏 金十円深良村岩波 全深良切久保
遠道原 全小泉村 全大庭太十郎 全二葉惠作
全土屋梅吉 全渡辺利三郎 全廣瀨三郎
金十円勝又米吉 全林久作 全藤森甚作 全渡辺清作
全高橋淺次郎 全勝又秀吉 全高橋廣藏
全勝又佐一郎 全大森松藏 全本田良藏 全柏木永吉
全柏木延次郎 全杉本啓作 全田村佳四郎
全大庭幸吉 全藤森清作 金八円深良町田
全勝又彦太郎 全土屋房次郎 全北山綱吉
全小野千太郎 全井上鶴吉 金七円五十錢滝井惣次郎
全藤森清吉 金六円五十錢柏木英太郎 全柏木忠次郎
全上田 金六 全井上栄藏 全伊藤日榮
金五 全深良上丹 全須釜十三戸 全和田市場

全□村公文名 全小泉村佐野 全□山村
 全富□村下和田 全今里村 全葛山 全上ヶ田
 全大森□郎 全古田米藏 全勝又銀□
 全勝又□ 全志村□ 全志村□ 全杉□
 全□市 全辰五郎 全勝又銀次郎
 全杉山新作 全土屋鶴吉 全大庭直次郎
 全小林米續 全藤森常吉 全五円渡辺保次郎
 全勝又與三郎 全湯山文太郎 全大原小次郎
 全小見山秀吉 全大庭惠十郎 全大庭□次郎
 全前田寅藏 全井上千代藏 全加藤利作
 全四十五錢藤森志げ 全土屋菊次郎 全廣瀨甚藏
 全川島三藏 全廣瀨□三郎 全釜勝次郎
 全土屋治次郎 全土屋廣藏
 全加藤義雄 全二円深良南堀 全泉村久根
 全小泉村石脇 全二円土屋正雄 全三好銀次郎
 全横山徳次郎 全二円廣瀨ふさ 全室伏仙太郎
 全青木伊三郎 全廣瀨菊次郎 全小俣昌次 全同幸作
 全六円勝又留吉 全一円五十錢高橋倉吉
 全廣瀨喜三郎 全土屋重吉 全土屋滝藏
 全湯山徳次郎 全天野茂一郎 全荖田前田喜代藏
 全加藤濱吉 全井上熊太郎 全湯川為二郎
 全杉本三平 全大庭吉藏 全池田種作 全亀井清藏
 全本田倉次郎 全湯川久雄 全武井忠作
 全遠藤儀三郎 全勝又菊松 全勝又亀太郎

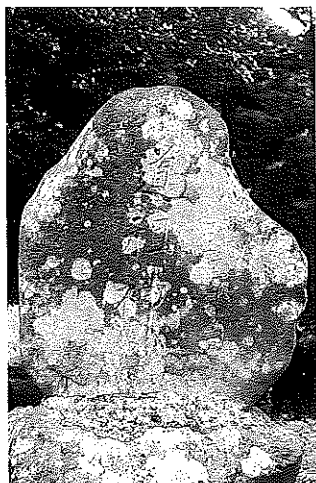
全荖田勝又菊次郎 全勝又佐平 全勝又岩藏
 全高橋忠作 全高橋徳三郎 全土屋文次郎
 全増田幸藏 全林由太郎 全松本新吉 全大庭與市
 全岩崎長康 全清水寛良 全芹澤孝三 全勝又彦夫
 全大塚仲藏 全十五円芹澤多根
 全二十三円湯山坊太郎 全一円五十錢杉本喜代作
 發起人 小林□三郎 小林□ 全松井謙保
 井上伴孝 世話人 渡辺利三郎 川口伊三郎
 勝又源吉 土屋要作 土屋金藏 土屋又一
 土屋為三郎 土屋梅吉 藤森清□

建築請負人 伊倉惣三郎
 明治四十三年十月起工 今年十二月竣工

深良地区 I



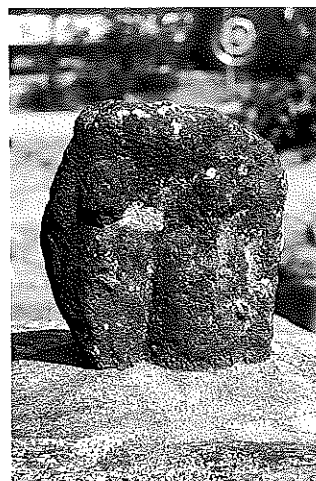
深良地区 I



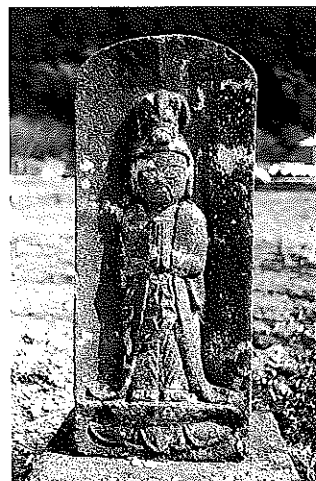
2 道祖神



1 碑 (深良用水)



4 道祖神



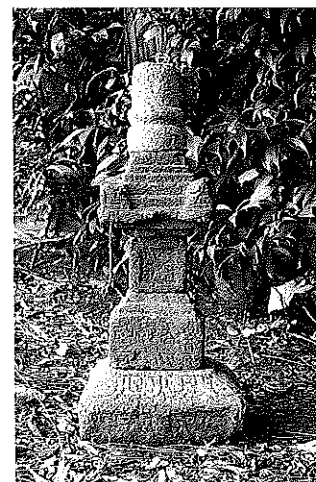
3 馬頭観音



6 用水碑



5-7 宝篋印塔



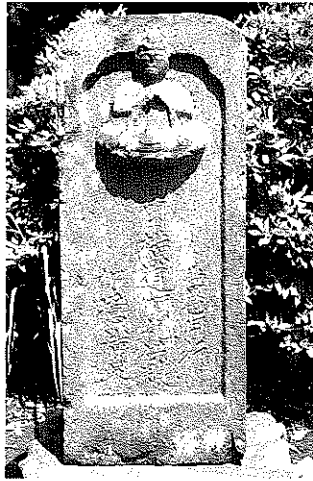
5-6 宝篋印塔



7 深良1551番地 勝又氏邸東側



7-3 順礼供養塔



7-2 順礼供養塔



7-1 馬頭観音



7-6 聖観音



7-5 順礼供養塔



7-4 順礼供養塔



7-9 馬頭観音



7-8 順礼供養塔



7-7 馬頭観音



8 道祖神



7-12 馬頭観音



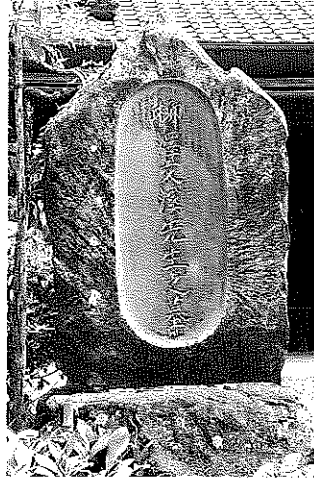
7-10 石造物(不明)



9 須蓋祖師堂 (柳沢文溪)



9-3 庚申塔



9-2 筆子塚



9-1 題目塔



9-6 庚申塔



9-5 庚申塔



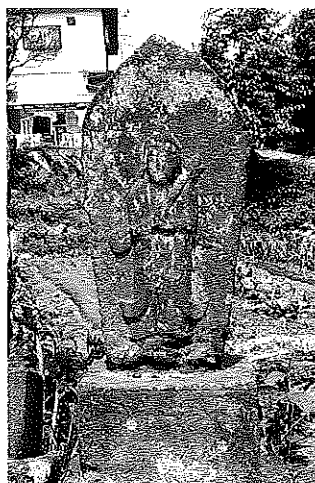
9-4 庚申塔



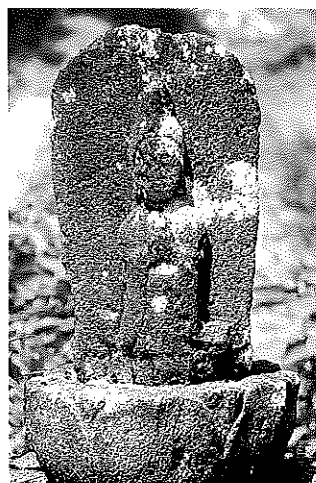
10 深良1568番地 小林氏邸前



10-3 馬頭観音



10-2 順礼供養塔



10-1 馬頭観音



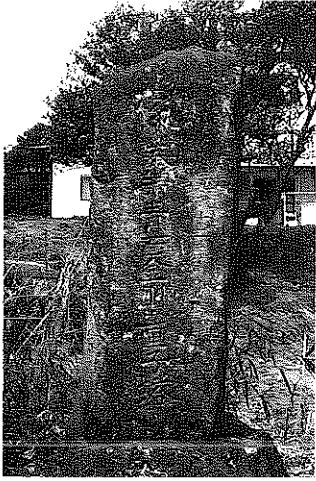
10-6 庚申塔



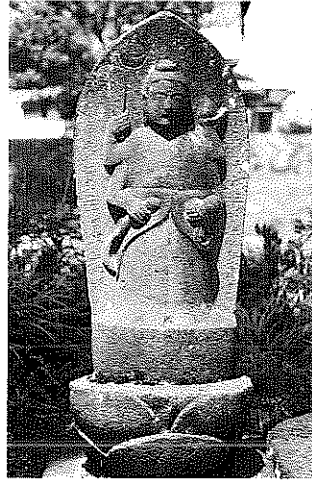
10-5 順礼供養塔



10-4 順礼供養塔



10-9 庚申塔



10-8 庚申塔



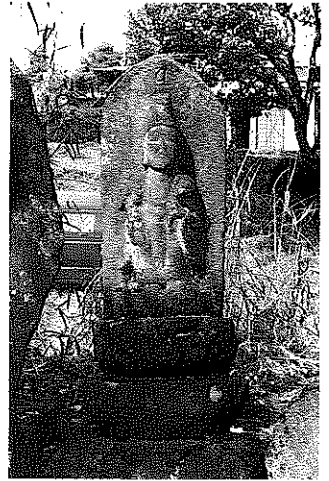
10-7 順礼供養塔



10-12 庚申塔



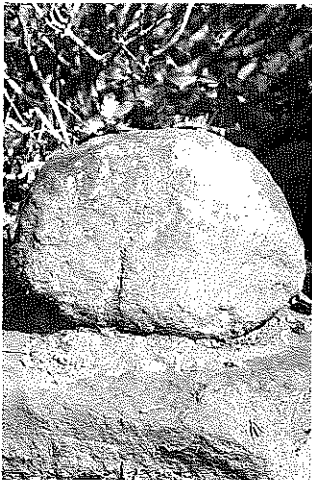
10-11 順礼供養塔



10-10 聖観音



12 碑 (圃場整備)



11-2 道祖神



11-1 道祖神



15 馬頭観音



14 如意輪観音



13 馬頭観音



17 駒形神社前



16 石 祠



17-3 道祖神



17-2 道祖神



17-1 道祖神



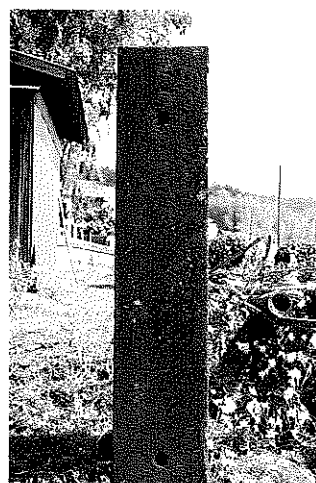
18 駒形神社



18-3 石灯笼 (部分)



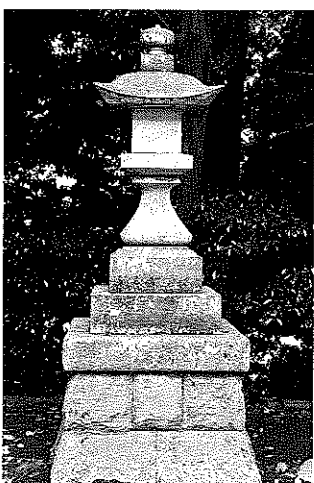
18-2 石灯笼 (部分)



18-1 幟 建



18-6 手洗石



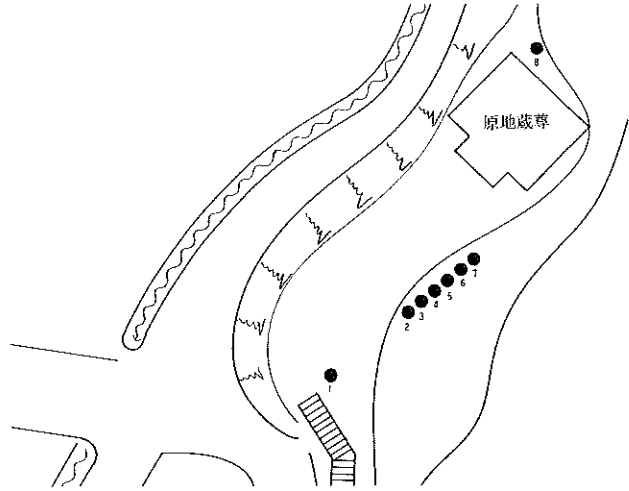
18-5 石灯笼



18-4 石灯笼



19-1 万壘塔



19

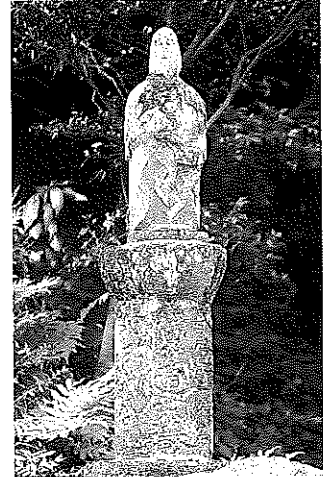
4



19-4 庚申塔



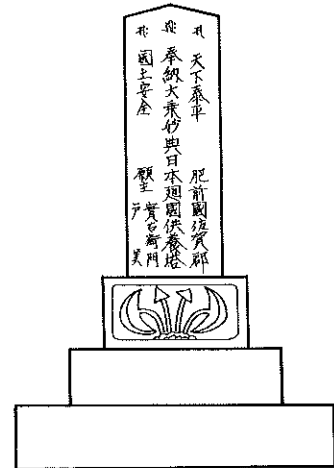
19-3 聖観音



19-2 順礼供養塔



19-6 順礼供養塔



19-5 廻国塔



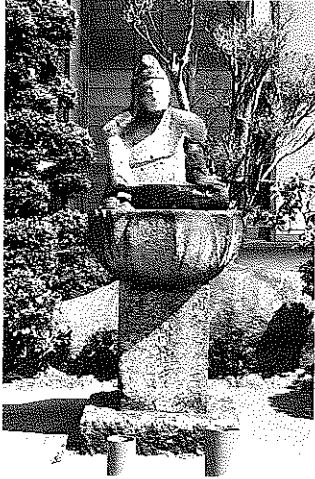
20 道祖神



19-8 地藏菩薩



19-7 庚申塔



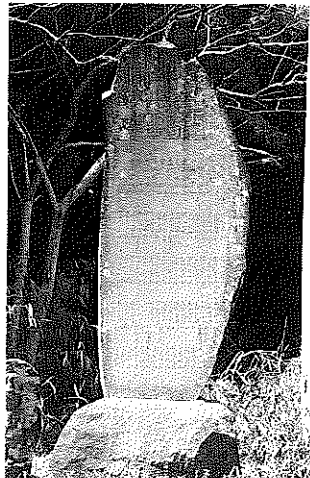
22-1 如意輪観音



21 馬頭観音



23-2 馬頭観音



23-1 碑 (山橋架設)



22-2 道祖神



24-3 地藏菩薩



吉	傳	幸	吉	長	源	大	伊	實	甚	伊	鉄
石	石	右	右	左	左	左	左	右	右	右	右
門	七	門	門	門	門	門	門	門	助	門	門

24-2 弁才天



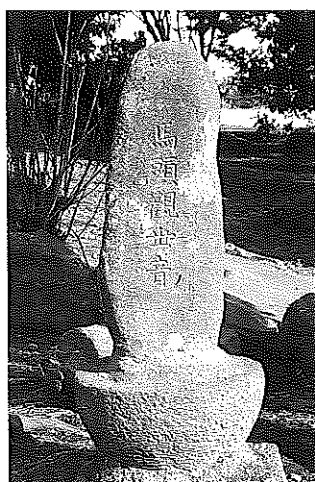
24-1 碑 (靈場由来)



24-5 順礼供養塔



24-4 題目塔



24-7 馬頭観音



24-6 馬頭観音



25 深良2983番地 勝又氏邸前



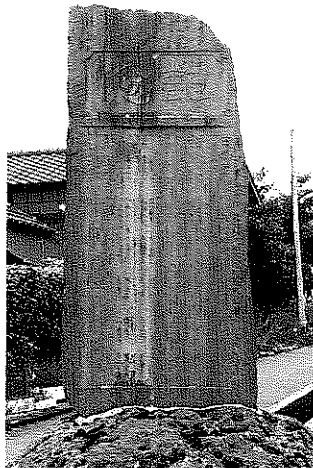
25-3 馬頭観音



25-2 道祖神



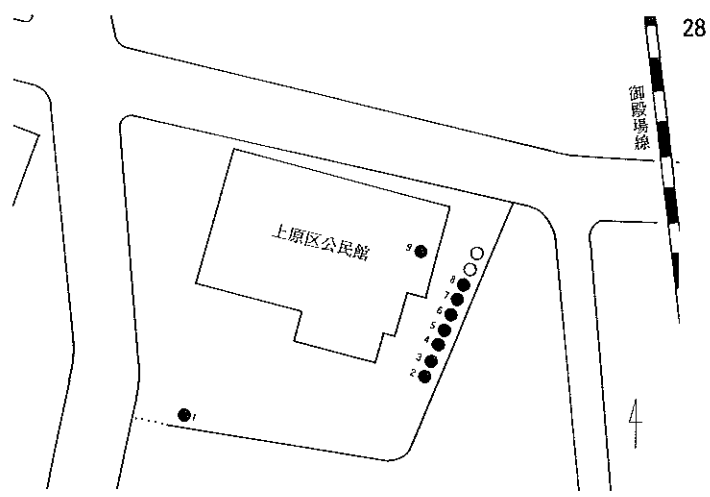
25-1 馬頭観音



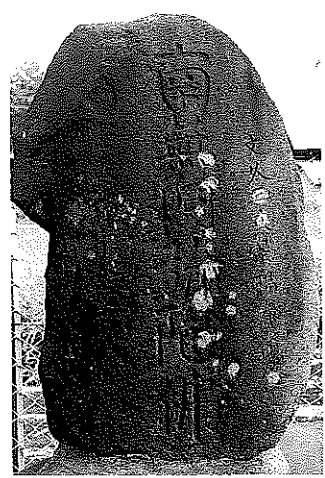
27 碑 (道路建設)



26 馬頭観音



28-3 順礼供養塔



28-2 名号塔



28-1 道祖神



28-6 庚申塔



28-5 順礼供養塔



28-4 順礼供養塔



28-9 その他の石造物



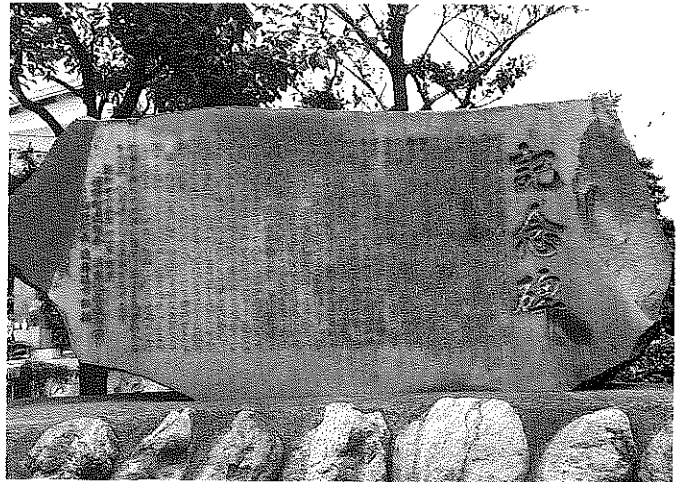
28-8 庚申塔



28-7 庚申塔



29-2 手洗石



29-1 記念碑(戦没者共同墓地)



30 道祖神



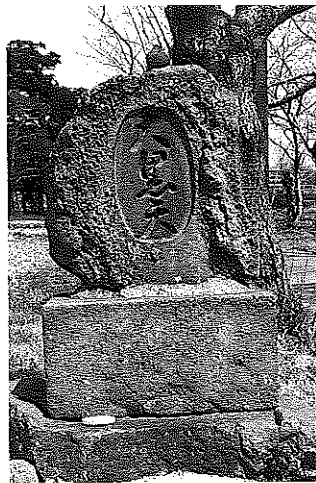
31 赤子神社



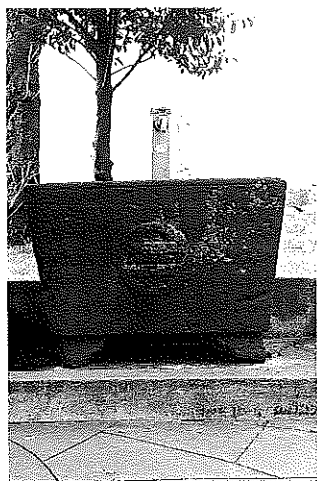
31-3 石灯籠



31-2 石灯籠



31-1 子持塔



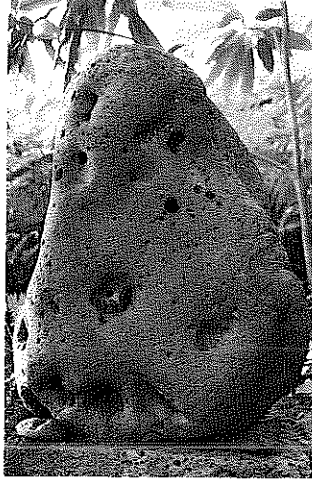
31-6 手洗石



31-5 鳥居



31-4 櫛建



33 石造物（耳石）



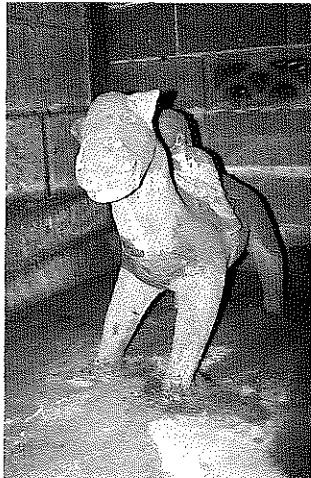
32 碑（唯念名号碑）



35 不動明王



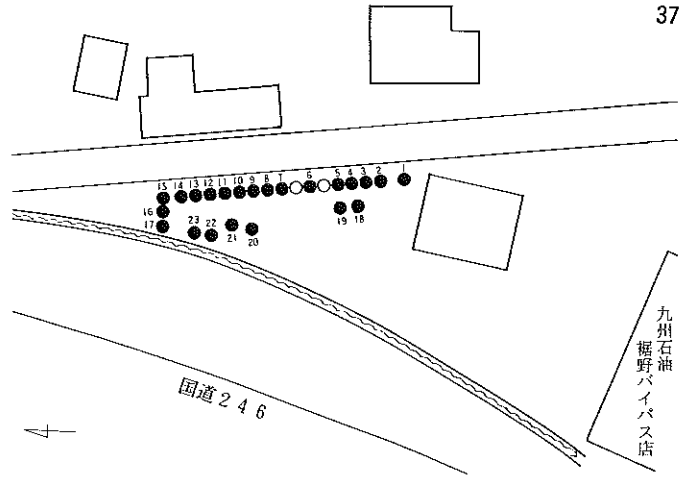
34 水神塔



36-2 石造物（不明）



36-1 真言文字塔



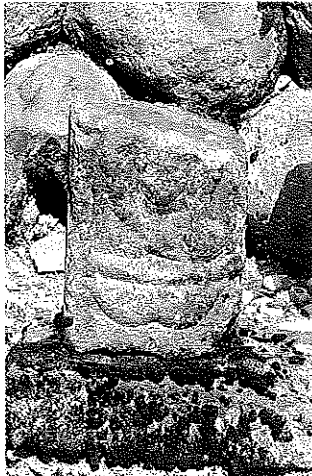
37-3 順礼供養塔



37-2 順礼供養塔



37-1 馬頭観音



37-6 石造物（不明）



37-5 如意輪観音



37-4 順礼供養塔



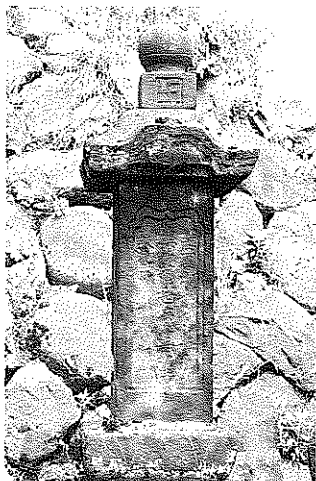
37-9 順礼供養塔



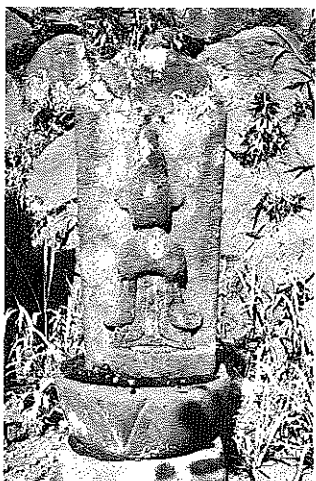
37-8 庚申塔



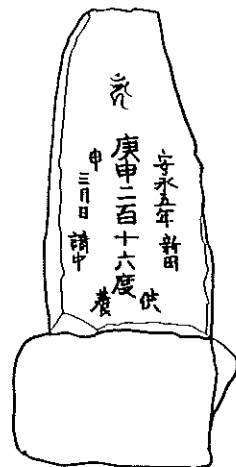
37-7 地藏菩薩



37-12 順礼供養塔



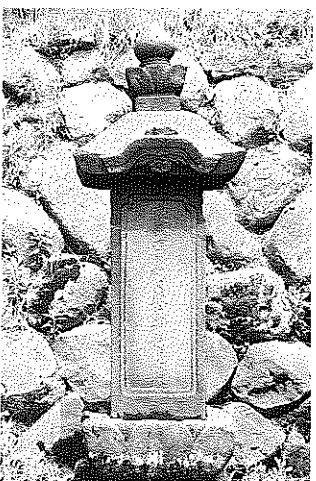
37-11 順礼供養塔



37-10 庚申塔



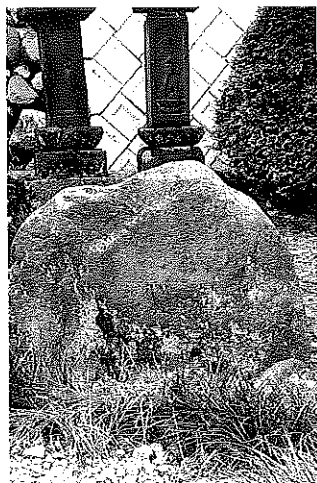
37-15 順礼供養塔



37-14 順礼供養塔



37-13 庚申塔



37-18 順礼供養塔



37-17 道祖神



37-16 道祖神



37-21 石灯籠



37-20 石灯籠



37-19 唯念名号塔 (部分)



37-23 馬頭観音



37-22 石造物 (不明)

深良地区Ⅰ石造物一覽表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
1	碑 (深良用水之碑)	自然石	昭和39 (一九六四)	392 × 172	別記1(55頁)
2	道祖神	自然石	昭和12 (一九三七)	132 × 73	(正) 道祖神 昭和十二年丁丑二月吉日 (背) 発起者 加藤芳太郎 大村與吉 梶原治朗 芹沢作平 杉山市五郎 室伏與作 岩崎清治 書 土屋為三郎 石幸
3	馬頭観音	浮彫立像	文政13 (一八三〇)	92 × 27	(右) 文政十三元年 (左) 十二月吉日
4	道祖神(双体)	浮彫立像		37 × 31	(風化)
5-1	五輪塔(部分)			28 × 17	(残存 空・風・火輪部)
5-2	宝篋印塔(部分)			16 × 21	(残存 笠部)
5-3	宝篋印塔(部分)			11 × 17	(残存 笠部)
5-4	宝篋印塔(部分)			25 × 22	(残存 基礎・基壇部)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
7-4	順礼供養塔(西)	浮彫立像	享保5(一七二〇)	89×28	別記4(55頁)	(聖観音)
7-3	順礼供養塔 (秩・坂・横堂)	舟型座像	享保16(一七三一)	95×32	別記3(55頁)	(如意輪)
7-2	順礼供養塔 (西・横)	櫛型	宝暦3(一七五三)	103×27	別記2(55頁)	
7-1	馬頭観音	浮彫立像	文政5(一八二二)	64×25	(右)文政五年 (左)午六月吉日	
6	碑(用水碑)	角柱	昭和48(一九七三)	223×39	(正)箱根用水 (背)昭和四十八年十一月廿五日 裾野市観光協会建之 (台座正)寄贈台石基 裾野市葛山 瀬戸基作	
5-7	宝篋印塔			54×20	(基礎正)明心 禅門	
5-6	宝篋印塔			64×19	(基礎正)為道春禅門	(相輪上部欠落)
5-5	宝篋印塔(部分)			38×21		(残存 塔身・基礎・基壇部)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
7-5	順礼供養塔 (秩・坂・西・横)	丸彫立像	享保8 (一七二三)	74 × 18	(背) 秩父坂東西國權道供養 享保八癸卯年八月吉日 (頭部丸石補修/聖観音)
7-6	聖観音	舟型立像	正徳4 (一七一四)	103 × 29	(正) 正徳四甲己年 八月十日 深良村 廣道 願主
7-7	馬頭観音	浮彫立像		82 × 24	(一部欠落)
7-8	順礼供養塔 (西・秩)	自然石	享和3 (一八〇三)	147 × 46	(正) 奉納西國秩父供養塔 (左) 干時享和三癸亥十二月吉日 西国一人同行 秩父九人
7-9	馬頭観音	自然石	慶応3 (一八六七)	95 × 50	(正) 馬頭観世音 慶應三卯年 十月日建之 願主 半左衛門
7-10	石造物 (不明)	浮彫立像		65 × 30	(風化)
7-11	石造物 (不明)	自然石		37 × 23	
7-12	馬頭観音	自然石	大正11 (一九二二)	75 × 27	(正) 十二馬頭観世音 大正十一年七月吉日 勝又米吉
8	道祖神	自然石	安政3 (一八五六)	107 × 54	(正) 道祖神 (左) 安政三辰星造立 (台座正) 氏子中

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
9-1	題目塔	自然石	明治14(一八八一)	154×92	別記5(55頁)
9-2	筆子塚(柳沢文溪)	自然石	明治18(一八八五)	174×78	別記6(56頁)
9-3	庚申塔	浮彫立像	天明4(一七八四)	101×36	(正)天明四辰年 十一月吉日 勝又権左衛門 (祖師堂内)
9-4	庚申塔	浮彫立像	宝暦3(一七五三)	84×31	(正)寶暦三癸酉天 八月吉日 (祖師堂内)
9-5	庚申塔	浮彫立像	寛政4(一七九二)	96×39	(正)○寛政四子 ○十一月吉日 (台座正)亦右衛門 仁左衛門 定左衛門 想采 新八 権左衛門 権十郎 (二猿)鷄浮彫/祖師堂内)
9-6	庚申塔	浮彫立像	貞享4(一六八七)	105×36	(正)○主建立庚申総勝又角左門須釜蓮 ○貞享四卯丁天三月同行四組 (台座正)廣瀬次郎衛門 勝又権十郎 高橋源六 同 与平 同 源衛門 勝又金兵衛 同 三衛門 (祖師堂内)
10-1	馬頭観音	浮彫立像		66×24	(銘文判読不能)
10-2	順礼供養塔 (秩・坂・横堂)	舟型立像	寛政4(一七九二)	106×29	別記7(56頁) (造立在が二ヶ所に刻まれている・風化/聖観音)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
10-10	聖観音	舟型立像	貞享4 (一六八七)	107×27	(正) 孔 □請□□大願 □□二世 干時貞享四丁卯年 駿州深良村 小林十左衛門 (風化)	
10-9	庚申塔	自然石	寛政12 (一八〇〇)	131×33	(正) 奉請書面金剛童子塔 寛政十二年 庚申九月日 上丹 講中	
10-8	庚申塔	舟型立像	天和3 (一六八三)	112×34	(正) ○ ◎干時天和三季亥年小春吉辰日 駿州深良上丹村 願主九人	
10-7	順礼供養塔 (西・坂・秩)	等唐破風 角柱、抜	正徳3 (一七一三)	173×52	別記9 (57頁)	(聖観音)
10-6	庚申塔	自然石	安永2 (一七七三)	145×50	(正) 奉 庚申二百度供養 安永二癸巳天 三月吉日 講中 七人	
10-5	順礼供養塔 (秩・坂・横)	丸彫座像	天明4 (一七八四)	145×32	(正) 為秩父坂東横道 (右) 天明四辰年 (左) 十一月吉日寅右衛門 □□□□□□□□□□ (聖観音)	
10-4	順礼供養塔 (秩・西・坂)	笠付角柱	天保3 (一八三二)	167×60	(正) 奉供養 父郡二十四番 西國三十三番 横道二十三番 (右) 天保三壬辰年 八月日 念佛講中 (左) 繁右衛門母 半左衛門母 甚七母 (上部欠落)	
10-3	馬頭観音	舟型	明治2 (一八六九)	83×28	別記8 (56頁)	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
10-11	順礼供養塔 (西・秩・横)	自然石	享和3 (一八〇三)	122 × 39	(正) 念佛供養 西国一人 秩父四人 横道一人 (背) 千時 享和三年 癸亥九月日 講中九人
10-12	庚申塔	自然石	万延1 (一八六〇)	163 × 56	(正) 庚申塔 上舟講中 (左) 萬延元庚申年十一月七日
11-1	道祖神 (双体)	駒形落彫	天保14 (一八四三)	76 × 39	(正) 氏子中 (左) 天保十四癸卯年八月吉日
11-2	道祖神	自然石		43 × 30	(塞の神)
12	碑 (演習場周辺 圍場整備記念)	板石	昭和60 (一九八五)	163 × 96	別記10 (57頁)
13	馬頭観音	舟型立像	天保14 (一八四三)	86 × 29	(正) 轉身畜女 天保十四卯二月廿八日 (台座正) ⊕ (台座右) 志主 村中 □左衛門
14	如意輪観音	舟型座像	宝永4 (一七〇七)	76 × 30	(正) 宝永四年亥十一月吉日 (舟型左下部欠落)
15	馬頭観音	角柱	昭和3 (一九二八)	75 × 30	(正) 馬頭観世音 (背) 昭和三年 四月建之 勝又□三
16	石祠	祠		81 × 57	(墓塔)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
17-1	道祖神(双体)	浮彫立像		51×29	
17-2	道祖神(双体)	浮彫立像		54×22	(風化)
17-3	道祖神(双体)	浮彫立像		67×32	(風化)
18-1	幟建		大正4(一九一五)	168×34	(正) 大正四年八月三日建之 原 須釜 氏子口
18-2	石灯籠	灯籠	天明6(一七八六)	162×53	(正) 奉獻 駒形大権現 (左) 原 須釜 若者中 (右) 天明六丙午三月吉日 (火袋欠落)
18-3	石灯籠	灯籠	天明6(一七八六)	154×54	(正) 奉獻 正八幡宮 (右) 須釜 原 若者中 (左) 天明六丙午三月吉日 (火袋欠落)
18-4	石灯籠	灯籠	昭和12(一九三七)	248×67	(正) 献燈 (背) 昭和十二年十二月 (火袋補修)
18-5	石灯籠	灯籠		252×69	(正) 献燈 (背) 須釜 供 勝又十藏 (火袋補修)
18-6	手洗石	箱型	文化8(二八一二)	74×62	(正) 奉納 (右) 文化八未中秋 土屋新左衛門 當所若者中

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
19-1	万霊塔	自然石	元禄14(一七〇二)	95×66	(正) 三界萬靈 元禄十四辛巳天 九月二日 願主 心誓物安 敬白	
19-2	順礼供養塔(横)	丸彫立像	宝曆12(一七六二)	115×17	(正) 横道供養 宝曆十二年 駿河国駿東郡 深良村願主敬白 大葉弥衛門 高橋太郎兵衛内 勝又喜兵衛内 小林甚兵衛内 土屋太郎衛門内 藤森弥助 八月十八日 (風化/聖観音)	
19-3	聖観音	丸彫座像		82×34		
19-4	庚申塔	自然石	万延1(一八六〇)	97×46	(正) 庚申塔 萬延元庚申年 十二月十九日 原中	
19-5	廻国塔	山型角柱	嘉永2(一八四九)	166×34	別記11(57頁)	
19-6	順礼供養塔(横)	丸彫座像	安永4(一七七五)	128×29	(台座正) 横道供養 (台座右) 安永四年 市左衛門母 まつ はつなん ちよ しも (台座左) 未四月 こめん 神右衛門 いち たつ はつしげ (聖観音)	
19-7	庚申塔	浮彫立像	寛政4(一七九二)	105×31	(正) 〇 寛政四 〇 子十一月吉日 (台座右) 想内 新八 銀左衛門 忠左衛門 □右衛門 (台座左) 市左衛門 平左衛門 太左衛門 (三猿一鶏浮彫)	
19-8	地藏菩薩	丸彫座像		43×35		

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
24 — 2	弁才天	浮彫座像	寛政2 (一七九〇)	110 × 38	別記14 (58頁)
24 — 1	碑 (霊場由来)	自然石	昭和56 (一九八一)	184 × 68	別記13 (58頁)
23 — 2	馬頭観音	舟型立像	文化11 (一八一四)	58 × 27	(正) 文化十一年戊午 十一月吉日 (右) 上舟 (左) 上原中
23 — 1	碑 (山橋架設)	自然石	大正8 (一九一九)	206 × 70	別記12 (57頁)
22 — 2	道祖神 (双体)	浮彫立像		40 × 26	(風化)
22 — 1	如意輪観音	丸彫座像	明和8 (一七七二)	103 × 32	(台座正) 念佛講中 明和八年辛卯年 九月廿四日 且又仲右衛門 同仁左衛門 小林浪右衛門 同文衛門 (台座左) 市左衛門 惣左衛門 藤右衛門 善七 (台座右) 小林 [] 同 [] 門 同 [] 門 同新 [] (一部欠落)
21	馬頭観音	浮彫立像		54 × 23	
20	道祖神	自然石	昭和43 (一九六八)	139 × 42	(正) 道祖神 昭和四十三年一月吉田建之

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
26	馬頭観音	自然石	明治34 (一九〇二)	52×20	(正) 南無馬頭観世菩薩 明治二十四年 七月十日 當所 立之勝又辰藏
25-3	馬頭観音	舟型立像	明和5 (一七六八)	47×22	(正) 明和五戊子十月十七日 室伏佐平 (一部欠落)
25-2	道祖神 (双体)	角柱 くり抜	享和3 (一八〇三)	100×28	(右) 享和三亥歳 (左) 十一月吉日
25-1	馬頭観音	舟型立像	文化7 (一八一〇)	48×29	(正) 文化七年歳 十月二十八日 願主 小林氏 (顔面部風化)
24-7	馬頭観音	自然石	明治26 (一八九三)	74×20	(正) 馬頭観世菩薩 明治廿六年 九月十六日 上原 志村伊平
24-6	馬頭観音	浮彫立像	寛政2 (一七九〇)	64×28	(正) 寛政二戌年 四月吉日 施主 佐太郎 (上部欠落)
24-5	順礼供養塔 (坂・秩・西)	自然石	文化11 (一八一四)	111×41	(正) 奉百番供養塔 法名 勝又淨照 文化十一戌年 十一月造主
24-4	題目塔	自然石	明治36 (一九〇三)	148×50	別記15 (59頁)
24-3	地藏菩薩	丸彫立像		100×21	(頭部割れ目・風化)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
27	碑(道路建設記念)	自然石	大正15(一九二六)	258 × 75	別記16(59頁)
28-1	道祖神(双体)	立くり 像 拔		64 × 46	(二部欠落)
28-2	名号塔	自然石	文久3(一八六三)	133 × 60	(正) 南無阿弥陀佛 文久三庚辰春脩建之 上原念佛講中 (台座正) 世話人 渡辺八右衛門 大庭良藏 志村甚七 勝亦吉左衛門
28-3	順礼供養塔 (西・横)	丸彫座像	宝曆3(一七五三)	117 × 26	(正) 奉供養正観音菩薩 西國樓道 三十三所 (右) 寶曆三癸酉 (左) 四月十三日 願主志村伊右衛門 同人内 (背) 駿東郡深良村 大場久右衛門内 (聖観音)
28-4	順礼供養塔(横)	舟型立像	正徳3(一七一三)	130 × 36	別記17(60頁) (聖観音)
28-5	順礼供養塔(横堂)	浮彫立像	貞享4(一六八七)	116 × 40	(正) 横堂 供養 貞享四□天 二月十八日 五左衛門 角右衛門 傅兵衛 (聖観音) 傅左衛門 源右衛門
28-6	庚申塔	等唐破風 角柱 _ノ 拔	元禄5(一六九二)	180 × 52	(正) ○ (左) 天下和順日月清明具一切功德 (右) 元禄五千申天七月十八日 同行衆 拾三人 (三猿浮彫)
28-7	庚申塔	等付角柱	延宝5(一六七七)	175 × 47	(正) ○ 南無阿弥陀佛 延寶五丁巳年 十一月三日 (右) 在傳□庚申□世 現 世雨益建□此尊右塔也 (左) 天下和順 日月清明 風雨以時 災厲不起 國豊民安 兵才無用 崇徳興仁 (三猿浮彫)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
31 3	石灯籠	灯籠		171 × 58	(正) 奉納赤子大明神 (左) 三月吉日 (右) 箕輪左太夫周義(火袋補修)
31 2	石灯籠	灯籠	安永7 (一七七八)	173 × 58	(正) 奉納赤子大明神 (右) 肯安永七戊戌歳 (左) 箕輪左太夫周義 (火袋補修)
31 1	子待塔 (大黒大塔)	自然石	文化1 (一八〇四)	106 × 58	(正) 大黒天 (台座正) 講中 勝間田太治右衛門 小林治兵衛 藤森伊左衛門 羽田縫左衛門 大庭太右衛門 (台座右) 文化元 申子歳 (台座左) 子月十五日
30	道祖神	山型角柱	昭和35 (一九六〇)	96 × 23	(正) 道祖神 1960
29 2	手洗石	箱型	昭和41 (一九六六)	60 × 84	(正) 奉納 (右) 裾野町遺族会 深良地区役員一同 昭和四十一年三月 (左) 寄贈水口口 渡邊土建株式会社
29 1	碑 (記念碑)	板石	昭和45 (一九七〇)	203 × 259	別記18 (60頁)
28 9	石造物 (導師)	丸彫座像		23 × 20	(上原公民館内)
28 8	庚申塔	自然石	万延1 (一八六〇)	79 × 43	(正) 庚申塔 萬延元年 庚申七月

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
36 1	眞言文字塔	自然石		95 × 31	(正) 真言宗 月光院	
35	不動明王	浮彫立像	宝曆7 (一七五七)	90 × 26	(正) □□□□□□□□ 施主 権十之 宝曆第七丁丑五月吉日	
34	水神塔 (石祠)	祠		86 × 80		
33	石造物 (耳石)	自然石		85 × 40		
32	碑 (唯念多尊碑)	磨崖碑			(正) 南無阿彌陀佛	
31 6	手洗石	箱型	天明1 (一七八二)	55 × 77	(正) ◎ (右) 天明元十一月日 (左) 藤季勇右衛門	
31 5	鳥居	神明型	大正1 (一九一二)	327 × 383	(左柱背) 大正元年十一月十日建之 神田氏子総代 土屋要作 土屋重三郎 石工 湯山坊太郎	
31 4	幟建		明治36 (一九〇三)	152 × 22	(正) 明治三十六年十月建之	

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
37-8	庚申塔	笠唐破風 角柱、抜	元禄13 (一七〇〇)	193 × 52	(右) 元禄十三辰天八月吉日 (左) 祈二世安樂者也深良村 同行八人 敬白	(二猿浮彫)
37-7	地藏菩薩	舟型立像	元文4 (一七三九)	95 × 27	(正) 元文四歲己未十月日 當村新田若衆中	
37-6	石造物(不明)	浮彫座像		45 × 23	(右) 辰天八月吉日 (左) 同行五人	(中央部折損)
37-5	如意輪觀音	櫛型 くり抜	元禄13 (一七〇〇)	95 × 25	(右) 元禄十三辰天八月吉日 (左) 深良村同行五人 敬白	(聖觀音)
37-4	順礼供養塔 (西・秩)	丸彫座像	明和8 (一七七二)	172 × 58	別記21(61頁)	
37-3	順礼供養塔(横室)	笠唐破風 角柱	宝曆7 (一七五七)	198 × 52	別記20(61頁)	
37-2	順礼供養塔 (西・秩・坂・横)	笠唐破風 角柱、抜	天明1 (一七八一)	192 × 51	別記19(61頁)	(如意輪)
37-1	馬頭觀音	舟型立像		72 × 27	(正) 藤森佐五右衛門	
36-2	石造物(不明)	丸彫像		64 × 90		

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
37 15	順礼供養塔 (秩・西・横)	角 笏唐破風 柱	享和3 (一八〇三)	167 × 56	(正) 奉納西國秩父横道供養塔 (左) 享和三癸亥天 西國同行四人 横道同行四人 (右) 十月吉日 秩父同行 八人
37 14	順礼供養塔 (西・秩・坂・横)	角 笏唐破風 柱	寛延4 (一七五二)	191 × 54	(正) 奉納西國秩父坂東横道供養塔 (右) 駿州深良村新田 施主 藤本傳内 同母 同お多ん 小野庄右衛門 (左) 寛延四辛未天 八月吉日 敬白 岩波 前田文内 廣瀬平吉 同平八 勝又新八 (背) 葛山村 坂田藤七郎
37 13	庚申塔	角 笏唐破風 柱	寛政12 (一八〇〇)	161 × 58	別記23 (62頁)
37 12	順礼供養塔 (西・坂)	角 笏唐破風 柱	寛保1 (一七四一)	177 × 52	(正) 奉供養觀世音菩薩 西國 坂東 (右) 天下泰平 風雨調順 施主 廣瀬文左衛門 同七郎兵衛 藤本庄右衛門 小野房右衛門 (左) 寛保元辛酉年 八月吉日立焉 (背) 法界平等利益 駿州深良邑新田
37 11	順礼供養塔 (西・横堂)	浮彫立像	享保9 (一七二四)	118 × 30	別記22 (61頁) (聖觀音)
37 10	庚申塔	自然石	安永5 (一七七六)	108 × 42	(正) 庚申二百十六度供養 安永五年 申三月日 新田 講中
37 9	順礼供養塔 (西・秩・坂・横)	角 笏唐破風 柱	文政4 (一八二二)	233 × 61	(正) 奉納西國秩父坂東横道供養塔 (右) 文政四辛巳年十一月日 新田十五人 須釜一人 上丹三人 原一人 (左) 上原七人 町田四人

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
37 23	馬頭観音	浮彫立像		55 × 24		
37 22	石造物(不明)	浮彫座像		55 × 18		(風化)
37 21	石灯籠	灯籠	安永2 (一七七三)	124 × 47	(正) 石燈籠念佛講 安永二癸巳天 五月吉日	(火袋下部欠落)
37 20	石灯籠	灯籠	延享2 (一七四五)	130 × 46	(正) 延享二天乙丑 五月吉日	(火袋上部欠落)
37 19	唯念多身塔	自然石	嘉永5 (一八五二)	159 × 87	(正) □ 阿彌陀佛 嘉永五壬子年三月 唯念(花押) 新田 念佛講中	(上部欠落)
37 18	順礼供養塔 (西・坂・秩)	自然石	享保14 (一七二九)	83 × 115	(正) 奉供養大慈大悲觀世音 西国三十三所 坂東三十三所 秩父三十四所 享保十四酉天八月十八日	
37 17	道祖神(双体)	浮彫立像	延享□	93 × 36	(正) 延享□□年 十一月□日	(上部欠落・風化)
37 16	道祖神	自然石	万延1 (一八六〇)	122 × 53	(正) 道祖神 (左) 萬延元庚申季 五月吉日建之	

別記1 碑(深良用水之碑)

(正) 三百年記念 深良用水之碑 静岡県知事斎藤壽夫書

(背) 碑文 深良疏水隧道は昔駿東郡深良村の名主大庭源之丞が発企し江戸浅草の人友野與右衛門が開鑿したものである與右衛門は源之丞の愛郷の志に感じ湖尻峠を堀り抜き芦の湖の水を引いて深良以南廿八ヶ村の旱害を除いた上八千石の新田を造成する計画をたて寛文三年二月箱根権現に祈誓して別当決長僧正の後援を得て幕府に出願した長浜半兵衛尼崎嘉右衛門浅井次郎兵衛の三氏も共に協力して出資し元締となった寛文六年五月廿八日漸く許可を得今年八月廿五日起工今十年二月廿五日竣工した遂道の全長は七三八間工費七三三五両余を要したという当時我が国最長のこの遂道の完成は全く與右衛門等が身命を尽して事に当った結果である以て湖水はこの隧道を流下し五三一町歩余の水田を潤し更に発電等にも利用されて地方繁栄の源泉となっている茲に遂道開鑿金三百年祭に当り碑を建てて深く諸氏の遺徳を偲び且つその偉績を讃仰するものである

静岡県芦湖水利組合

昭和三十九年十一月吉日 沼津市東熊堂清教書

全岡宮加蔵石材工業刻

別記2 順礼供養塔(西・横)

(正) 西國横堂順礼供養 當邑同行 如意浦足

(右) 宝曆三癸酉歳 勝俣利兵内 同名貞右衛門母

同名同人妹 廣瀬市兵衛内 勝俣金兵衛内

(左) 七月大吉祥日 小林治三郎内 同名平七郎

小林甚兵衛 勝俣権右衛門母 同名彦四郎

別記3 順礼供養塔(秩・坂・横堂)

(正) 秩父坂東順礼之志 横堂三十三所之志

享保十六亥四月八日

(台座正) 勝間田長四郎内 諸星九左衛門

(台座左) 廣瀬三郎左衛門 廣瀬喜兵衛

(台座背) 勝間田三右衛門 野際権左衛門

(台座右) 勝間田八右衛門 勝間田長十郎内

別記4 順礼供養塔(西)

(正) 西國三十三所觀世音 順礼供養 廣瀬半四郎

享保五庚子天 六月八日

(台座蓮弁) 干限 □限 勝又 高橋□郎右衛門

徳左衛門 秩 □限

(台座正) 権左衛門 同内方 次左衛門内方

佐平次慈母

(台座右) □□衛 □内方 興左衛門

(台座左) 慈母 若衛門内方 枚山浅右門内方

別記5 題目塔

(正) 南無妙法蓮華経日蓮(花押) 小林文信居士謹寫之

(背) 高祖大士六百遠忌報恩謝徳 明治十四辛巳年

別記6 筆子塚(柳沢文溪)

十月正當日建之 志主玄題社中 自他宗有志之面々
世話人 勝又伊八 勝又儀平 勝又金四郎
石工 三宅島吉 同 平田清吉 (花押)

(正) 柳澤文溪先生之墓

(背) 文溪師墓表

(冠印)

駿之深良邑有聾者日文溪師諱淳吾文溪其號幕士柳澤
豐後子年 二十八病而聾乃棄世事而隱居焉環深良之邑
日久根日神山日萩原 其間後生小子為學者大抵踵師之
門師溫良慈惠而有才學尤精書法 其教人未嘗少倦也向
者師患聾也乃日罪業深重以得此應報耳當歸 依法華宗
巡拜蓮師靈跡而自懺也即飄然出家而探其啓迹於諸州後
寓神山從學者頗多居三年移居于岩波于萩原于深良于久
根凡十數年而所在門人常不下百名既而登甲之身延山吊
高祖蓮師墳日吾病 昔之志願於是乎畢矣滯留巨摩山梨
之間者二年還駿居柴木三年再赴深良主小林某家其門人
前後八百餘名輩之於書鎔化古法別出新 意與尋常書家
者流固非同日之論也宜矣門人之多如此師年七十以 疾
終實明治十七年二月二十一日也葬于深良歸正庵師壯而
死娶妻 死治產孤杖單身流寓諸方其所携文具什器不滿
半擔意會則留興盡 則去釋氏所謂深達實相真如之理者
非耶其削髮之時年四十二信心 益厚倣蓮師筆意寫法華
經題目者一千五百幅疾革之日湛然如眠絕無苦痛之態人

別記7 順礼供養塔(秩・坂・横堂)

以為法華經之功德又所自書筆談數卷其行文巧與字 畫
佳皆為學者所稱嗚呼師而兩耳聰然其益人利物幾何耶其
耳雖聾 其志行藝文如此而使一方人眾長奉羨其衣鉢不
亦偉乎深良小林 兩某一之瀨某等與師之故舊門人追慕
其德而恐孤墳無主其跡之泯滅 而人無復知也謁子叙其
梗概表諸石以傳悠久云明治十八年二月十日

東京島村太郎述

門人

小林文信謹寫

別記8 馬頭觀音

(正) 寬政四壬子天 九月吉日

(台座正) 干時享保九年 辰十一月申旬

(台座右) 勝俣太兵衛 同内 勝俣茂左衛門 同内

小林平四郎内 勝俣長三郎母

(台座右) 勝俣□□□□母 諸星六右衛門内

勝俣忠太郎 同内 小林十右衛門

(台座右) 駿州深良村住人 順礼秩父坂東横堂觀世音菩薩

奉祈悲世之□□生會祈子孫繁昌者也 小林金石衛門内

別記8 馬頭觀音

(正) 南無馬頭觀世音菩薩 明治二己巳年 十一月吉日立之

願主 小林平四郎

(台座右) 秩父同行 染右衛門 小左衛門 甚右衛門

伊左衛門 惣丹

(台座右) 安右衛門 ヲイチ 同母

(台座左) 横道同行 ヲイチ ヲヨシ おせん

(台座は順礼供養塔のもの)

別記9 順礼供養塔(西・坂・秩)

(右) 奉納西国坂東秩父百ヶ所 大橋宗衛門 同名作兵衛

田代傳四郎 勝俣源太郎 諸星五左衛門 大庭久三郎

(左) 觀世音菩薩 同名庄太郎 同名多郎口門 勝俣茂左門

小林彦八 同名平治郎 同名平四郎

(背) 正徳三癸巳歲七月吉日 駿州深良村 勝俣仁衛門

藤森孫十郎 廣瀬七郎衛 土屋喜兵衛 小林平内

渡辺作左衛門

別記11 廻国塔

施行委員長小林静雄 水利委員長 小林喜一郎
他 地権者一同

(正) 奉納大乘妙典日本廻國供養塔 天下泰平肥前

國 佐賀郡 國土安全 願主 實右衛門 戸美

(右) 開眼師大森山 十六世勝蓮社竟譽上人(花押)

(左) 岩時 嘉永二己酉年 八月廿三日

(台座右) 世話人 高橋甚左衛門 廣瀬治良兵衛

勝亦初右衛門 勝亦茂兵衛 土屋太右衛門

小林重右衛門 土屋甚左衛門 同茂吉 渡辺八右衛門

勝亦太右衛門

(台座左) 脇願主 上野国 善教 添願主 武威国 禪良

別記10 碑(演習場周辺圃場整備記念)

(正) 圃場整備記念碑 事業名 東富士演習場周辺農業用施設(は場整備) 設置助成事業 裾野岩波工区圃場整備

工事 補助事業者静岡県防衛補助 事業主体 裾野市

施行主体 富士裾野東部土地改良区 事業対象面積

九三、〇〇〇平方メートル 竣工面積 七八、五五九

平方メートル 総事業費 一八九、〇二九千円

実施年度 昭和六十・六十一・六十二年度 実施期間

自昭和六十年十二月二十日至昭和六十三年三月

二十五日

(背) 裾野市初の圃場整備モデル事業の実施を記念し之を建

つ 岩波工区圃場整備推進委員会 委員長小林秀一

換地委員長 勝又金作 評価委員長 小林岱良

別記12 碑(山橋架設)

(正) 記念 山橋架設 發起人 小林久五郎 小林聿

武井忠作 志村平吉 志村榮治 室伏熊太郎

勝又辰藏 大庭由市 室伏熊次郎 渡辺常作

篆額 井上文貞書

建設費 寄付金額芳名 金五拾圓小林聿

金四拾圓小林義左 全志村平吉 全志村榮治

金三拾圓松井謙保 全小林備一 全湯山一

全川口伊三郎 全土屋半治 全前田浅蔵

全勝又嘉十郎 全勝又音吉 全安藤金助

全井上直吉 全廣瀬三郎 全井上伊三郎

全勝又清五郎 全小林猶作 金三拾圓武井忠作
 全勝又豊 全室伏熊五郎 全大庭由市 全渡辺常作
 全室伏熊次郎 全室伏共二 全大庭徳太郎
 全勝又久俊 金二拾二圓藤森吉三
 金拾八圓武井正作 全大庭己之助 全室伏圓次郎
 金拾七圓渡辺榮史 金拾五圓小林久五郎 全水口兼雄
 全勝又銀年 全勝又常吉 全勝又松五郎
 金拾五圓早川兵吉 全小林房次郎 全小林常次郎
 全小林松五郎 全大庭與市 全高橋行太郎
 全廣瀬貞次郎 全勝又熊次郎 全野渡是則
 全青木伊策 全土屋房次郎 全古田茂十郎
 全塩谷與作 全勝又為蔵 全土屋為三郎 全土屋民太郎
 全土屋要作 全勝又裕太郎 金拾五円林周作
 金拾五圓土屋又一 全室伏佐十 全堤儀作
 全遠藤儀三郎 全大庭太市 全今井健蔵
 金拾三圓藤森周作 全勝又長 金拾二円志村久次
 全室伏政吉 金拾圓井上伴学 全大庭鶴吉
 全渡辺竹次郎 全勝又武男
 大正八年三月建設 工事設計者 小川光太郎
 大杉金太郎 金拾圓大庭與一 全室伏仙太郎
 金八圓川口莊太郎 金七圓勝又佳 金六圓三拾錢
 金八圓廿錢前原二組 金六圓小林甚三郎
 金五圓土屋友次郎 全杉本貞 全一ノ瀬勝太郎
 全増田幸蔵 全勝又彌一郎 全上丹最寄中
 全渡辺甚作 全室伏茂市 金五圓室伏弥三郎

別記13 碑(靈場由来)

(正) 南無妙法蓮華經

日蓮聖人車返靈跡 当地ハ文永十一年五月十四日宗祖
 日蓮大聖人ノ鎌倉ヨリ身延へ 御入山ノ途次宿泊セラ
 レタル靈跡ナリ明応年間堂宇再建シ上原山最復寺ト称
 ス明治中葉ニハ三島本覚寺ノ所轄トナリシ事アリ長年
 月ニ互リ近隣信徒力ヲ合ワセ護持丹精シテ今日ニ及ブ
 第七百遠忌ノ嘉辰ニ当リ茲ニ謹ンテ鑽仰顕彰シ以テ御
 報恩ニ擬シ奉ル
 昭和五十六年八月二十五日
 日蓮宗静岡県中部宗務所

別記14 弁才天

(台座正) 鉄右衛門 伊左衛門 甚左衛門 幸助 寛左衛門
 伊左衛門 太浪右衛門 源左衛門 長左衛門
 吉右衛門 幸右衛門 傳七 与惣左衛門
 (台座右) 安兵衛 六右衛門 五右衛門 長左衛門 孫兵衛
 (台座右) 近村講中 幸中 寛政二 庚戌年 四月吉日

別記15 題目塔

(正) 南無妙法蓮華經 日蓮(花押)

文永十一年五月十四日自鎌倉身延御入山之砌

高祖大士弘安五年十月二十三日自池上身延御送骨之砌

御宿泊之 奉供養 高祖御靈場並 本宗之寺院等

壹千餘箇寺往詣滿歸之時建立之 詣主 當所

室伏安平 妻そめ 文信居士謹寫竝字刻字

(右) 明治三十六年十月二十六日

別記16 碑(道路建設記念)

(正) 記念 道路寄附芳名 金阡百九拾貳円深良村

金貳百円小林聿 金壹百円小林僖一 金五拾円

土屋半治 全小林義左 金四拾円湯山一 金參拾五円

勝又為藏 全勝又音吉 全小林田作 金參拾円

土屋為三郎 全志村榮治 全土屋又一 全室伏新七

金貳拾四円高藤信次郎 金貳拾四円山川為吉

全大庭申一 全川口伊三郎 全勝又米吉 金拾六円

吉田茂十郎 金拾五円渡邊清作 全勝又豊

全勝又和吉 全土屋要作 全土屋梅吉 興禪寺

全塩谷與作 金拾貳円小林末續 金拾円二荒恵作

全大庭由市 全渡邊常作 全渡邊慶藏 全勝又長

全勝又久凌 全勝又七藏 全川口莊太郎 全瀧井奉一

全土屋富永 全土屋米太郎 金拾円土屋弘一

全土屋治太郎 全室伏熊 全室伏圓次郎 全室伏佐一

全室伏共二 全窪田豊作 全藤森吉藏 全藤田清次郎

全藤森吉三郎 全志村平吉 全廣瀨卯市 全杉本貞

金九円藤森甚作 金八円大庭文作 全長田壯作

全勝又與三郎 全川島壽太郎 全勝又茂市

全廣瀨謙治 金八円土屋仙藏 全小俣昌治

全安藤金助 全廣瀨三郎 金七円渡辺榮夫

全武井正作 金六円大庭己之助 全渡辺竹次郎

全勝又清吉 全土屋鶴吉 全室伏政吉 全藤森正尾

全藤森周作 全志村仲吉 全志村重雄 全廣瀨傳作

金五円今井健三 全大庭幾太郎 全大庭為吉

全八円勝又元吉 金五円武井喜好 全土屋保次郎

全土屋廣藏 全室伏弥三郎 全室伏茂市 全藤森清吉

全小泉雪太郎 全青木伊三郎 全北山一郎

全志村久治 全志村治作 金四円大庭太市 金參円

小野仙太郎 全渡辺虎夫 全金沢久作 全堤儀作

全中村志吉 全福田孝一 金參円北山うめ

全齊藤林之助 全廣瀨ふさ 全廣瀨菊次郎

金貳円大庭與三郎 全大庭くま 全渡辺よし

全渡辺寅吉 全渡辺吉五郎 全釜尻信次郎

全横山まさ 全藤森重 全志村金藏 全廣瀨義隆

全廣瀨琴長 全廣瀨作藏

(背) 大正拾五年四月竣功 道路委員 新田區長土屋為郎

上原區長小林義左 小林聿 小林信一 土屋半治

志村榮治 土屋又一 渡辺常作 勝又為藏 室伏共二

勝又米吉 勝又和吉 大庭由市 土屋米太郎

土屋治太郎 古田茂十郎 室伏佐十 志村平吉

塩谷與作 工事請負人 渡辺慶蔵

別記17 順礼供養塔(横)

(正) 奉供養横道三十三所観世音菩薩

正徳三癸巳年八月吉日駿州深良村

(台座正) 柏木内 渡邊伊左衛門 田代四郎兵衛内 同母

高田長七郎 同母 大庭市兵衛母

(台座右) 水野庄右衛門内 北山又兵衛母 大庭與四右衛門

小林彦八郎母 小林久右衛門内 志村角右衛門内

藤森長四郎母

(台座背) 勝股長左衛門 同源八郎 大庭久三郎内 同仁平

田代傳四郎内 明春

(台座右) 不苦 彌禰 角田三右衛門 勝股源太郎母

権七郎 渡邊傳兵衛 同内

別記18 碑(記念碑)

(正) 記念碑

戦後二十二年春遺族会結成の気運高まり初代会長に大庭定雄氏が就任されたが十月病に倒れ土屋治重氏が任に当ると共に深良小学校校庭内にある忠魂塔が駐留軍の命によりやむなく赤子神社境内に移転され春秋の慰霊祭も此の地で行なわれた昭和二十八年二月勝又房太郎氏が会長に就任遺族会員の希望で忠魂塔を独立地に設けようと当時の村長小林秀也氏及び村議会に請願当局の深い理解と地主各位の御協力により渡辺土建が移

転建立に当る又村当局より戦没者墓碑集団建立するよう要請があり墓碑を統一したものとするため岡崎市清水組合石材工場に発注し昭和二十九年十二月二十九日忠魂塔完成に併て慰霊祭を挙行翌三十年春村内有志の献木により霊の安らぎを計る昭和三十一年九月町村合併促進法により裾野町に編入合併し深良地区遺族会として運営する三十五年深良財産区議長土屋半治氏に請願百余柱の遺骨遺品を納める焼入瓶を金壹万円で購入設置す四十一年二月場内に水道施設を施し沼津高島石工にて水鉢を設計渡辺慶蔵氏寄贈の水屋建設す四十四年春霊地内の道路整備を時の首長遠藤町長氏に請願関係地主のご協力により組合道を起点として副員三米参道が渡辺土建工業の施行四十五年三月完成と同時に周囲の玉垣も町当局の理解ある協力と遺族各位の熱意にて永久的な物とする事ができた茲に移転以来十七年余遺族の努力と関係各位のご協力により戦没者の霊を祀るにふさわしい慰霊の地の完成を記念し関係各位へ感謝の意を表わすと共に後世に伝える為素朴な石を建立し記念碑とした次第であります

昭和四十五年十一月吉日

裾野町遺族会深良地区遺族一同

裾野町長遠藤佐市郎撰

(背)

記念碑寄附者芳名 一金参万円勝又房太郎

一金貳万円増田義晴 一金貳万円松井宇一

一金貳万円川口正一 一金貳万円小林ひさ子

一金貳万円井草新平 一金貳万円勝又輝夫

一金壹万円勝又茂重郎 一金壹万五千円室伏鴻子

一金壹万五千円加藤よね

一金壹万五千円小見山みつ江 一金壹万円土屋強

一金五千円野際春三 一金四千円土屋静子

一金壹万円牧野騷 一金壹万円 篤志家遠藤佐市郎

一金壹万円 篤志家一ノ瀬清

当時深良役員 初代会長大庭定雄 副会長小澤佐太郎

二代會長土屋治重 副會長林猛

三代會長勝又房太郎 副會長増田義晴 監事松井宇一

理事川口正一 同小林左近吾 同牧野騷

評議員井草新平 同勝又茂重郎 同勝又輝夫

同野際春三 同室伏鴻子 同加藤よね

同小見山みつ江

別記19 順礼供養塔(西・秩・坂・横)

(左) 奉順礼西國秩父坂東横道供養塔

西國 土屋嘉衛門 同甚七 加藤甚左衛門 大庭人内

同傳助 義右衛門 源八 小林平八 勝保定七

同弥七 同人内

(右) 天明元丑天十月吉日 秩父連七人 坂東五人 連六人

横道連二人 喜兵衛 □衛門

別記20 順礼供養塔(横堂)

(正) 奉順礼横堂觀世音菩薩供養塔

(右) 寶曆七丁丑歳 駿東郡

(左) 八月十有五日 深良村

(台座右) 勝保三十郎内 大庭勘三郎 同元七母

藤森傳藏内 滝口半六母 志村権十郎内

同藤左衛門母 渡辺弥平治内

(台座左) 同治郎右衛門内 同同人□ 同平吉内

廣瀬藤七内 同利右衛門内 小林源三郎内 同新八母

同元右衛門内

(台座背) 同平八内 同嘉兵衛内 土屋善右衛門母

高橋彦八母 高田辰右衛門 武井銀右衛門母

同圓右衛門母 同弥七内 同定七母

別記21 順礼供養塔(西・秩)

(正) 西國 秩父 供養 明和八辛卯歳 九月吉日

(正面左) 土屋喜兵衛 同元右衛門 同平八 同内 同新八

同太郎右衛門

(正面右) 勝保重郎右衛門 大庭勘三郎 廣瀬藤七

志村権十郎 渡邊伊右衛門 小林重右衛門

(背面右) 野極権左衛門 廣瀬新平内 大庭市右衛門母

道白

(背面左) 藤森元七 同内 同武右衛門同弥市 志村源吉内

別記22 順礼供養塔(西・横堂)

(正) 供養西國三十三所觀世音菩薩

供養横堂三十三所觀世音菩薩

別記28 庚申塔

(台座正) 駿州深良村 西國同行 勘左衛門 弥平次

傳四郎 享保九甲辰年 八月七日

(台座右) 横堂同行 文左衛門 同内 傳四郎 同娘

仁右衛門内 源四郎内 五右衛門□

(台座左) 横堂同行 勘左衛門内 庄八母 伊左衛門

同内 弥平次 傳四郎 九左衛門

(正) 庚申供養塔

(右) 寛政十二天

(左) 庚申十月吉日

(台座正) 北山新内 勝又弥七 同藤左衛門

(台座右) 藤森勇右衛門 同伊左衛門 同文右衛門

大庭光□院 同源介 志村徳右衛門 小林若兵衛

藤森半左衛門

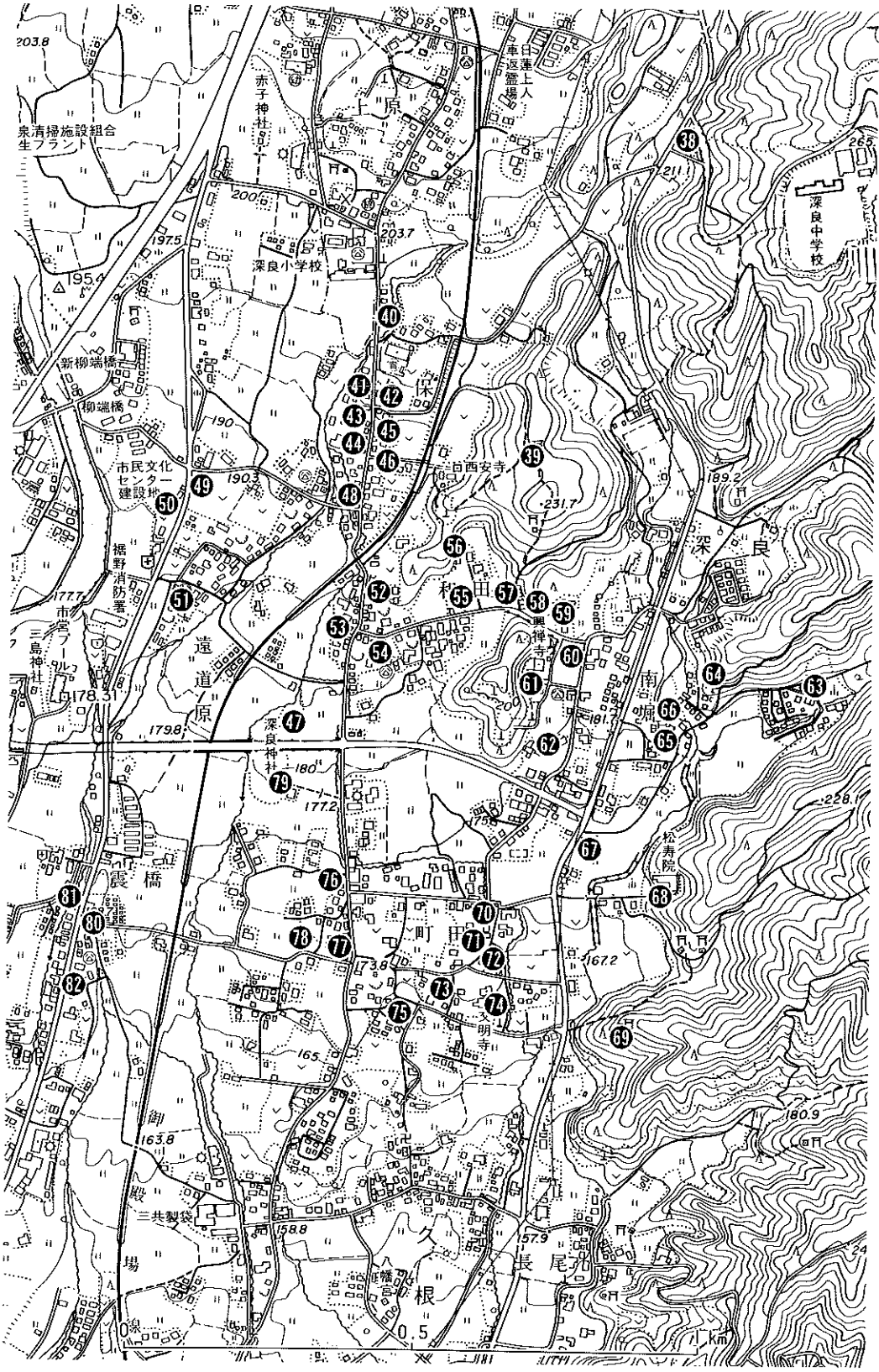
(台座左) 小林徳蔵 土屋嘉右衛門 同用右衛門 同平八

同甚七 同糸八 同甚衛門 滝井長左衛門

(台座背) 廣瀬惣右衛門 同七兵衛 同文左衛門

同友左衛門 同五郎右衛門

深 良 地 区 II



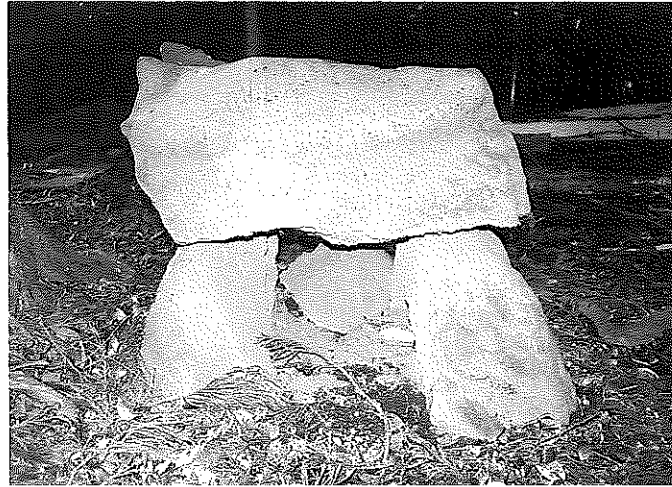
深良地区 II



38 馬頭観音



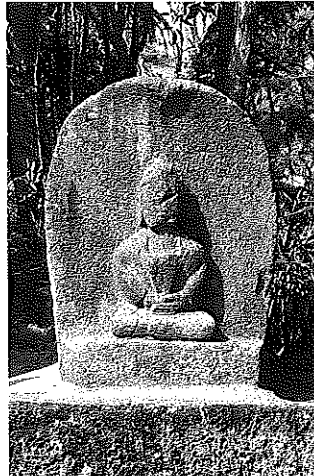
41 廻國塔



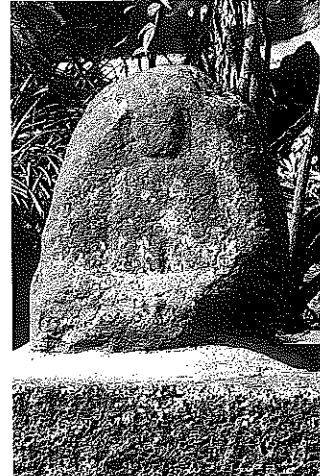
39-2 手洗石



43 馬頭観音



42-2 道祖神



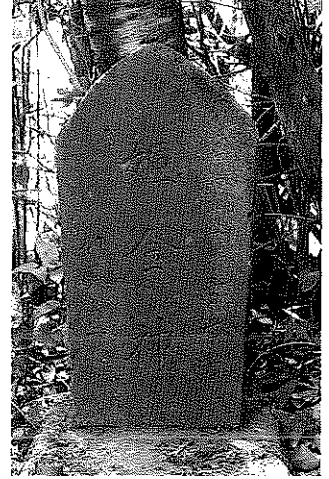
42-1 道祖神



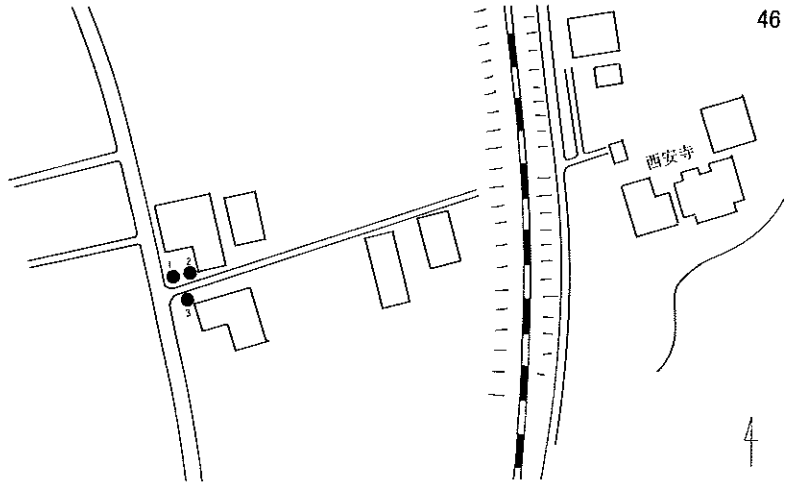
47 庚申塔



45 馬頭観音



44 諸神 (地神)



46-3 写経塔



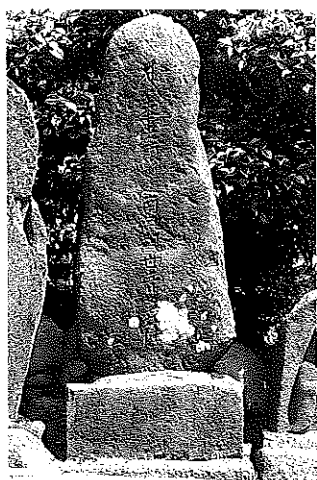
46-2 名号塔



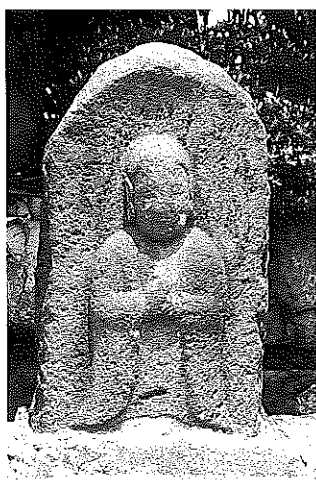
46-1 敷石供養塔



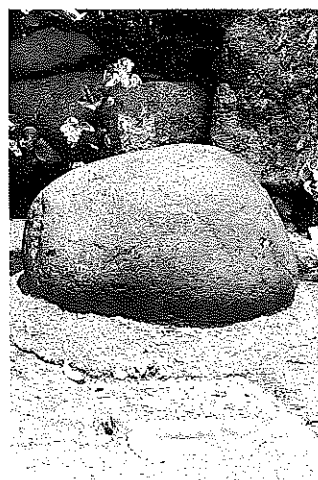
48 切久保



48-3 順礼、順拝供養塔



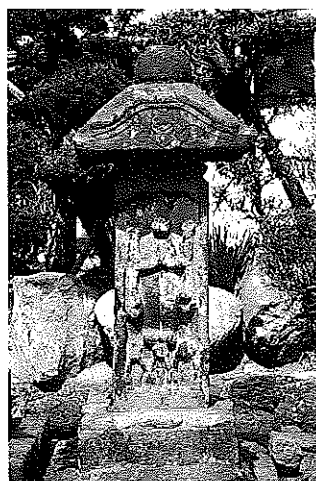
48-2 道祖神



48-1 力石



48-6 庚申塔



48-5 庚申塔



48-4 唯念名号塔



49-3 碑 (支那事変戦没)



49-2 石灯籠



49-1 石灯籠



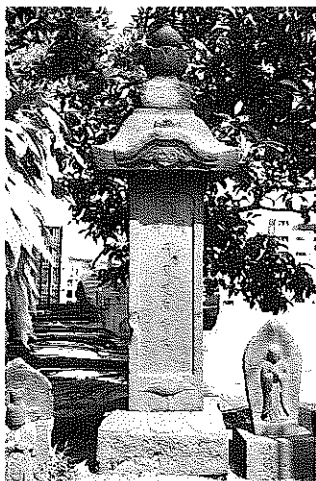
50-1 順礼供養塔



50 深良492番地 勝又氏邸内



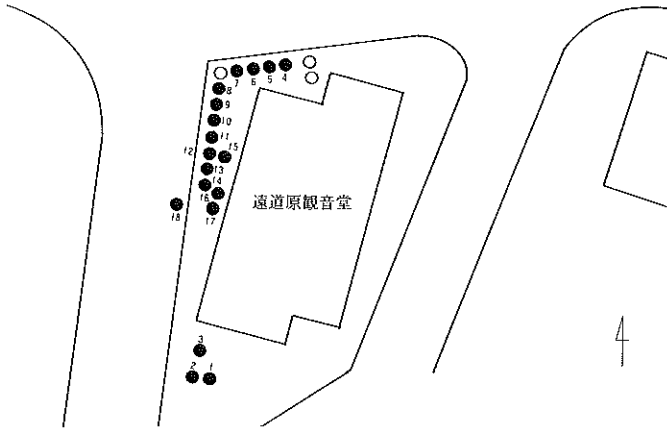
50-4 馬頭観音



50-3 順礼供養塔



50-2 万霊塔



51-3 唯念名号塔



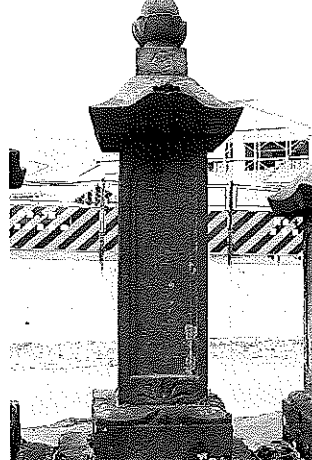
51-2 道標



51-1 馬頭観音



51-6 庚申塔



51-5 順礼供養塔



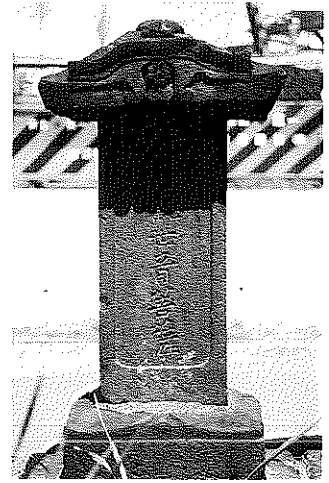
51-4 順礼供養塔



51-9 地藏菩薩



51-8 地藏菩薩



51-7 順礼供養塔



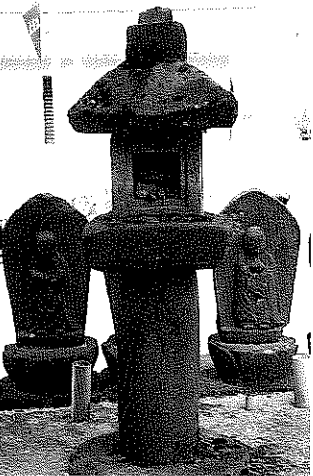
51-12 地藏菩薩



51-11 地藏菩薩



51-10 地藏菩薩



51-15 石灯籠



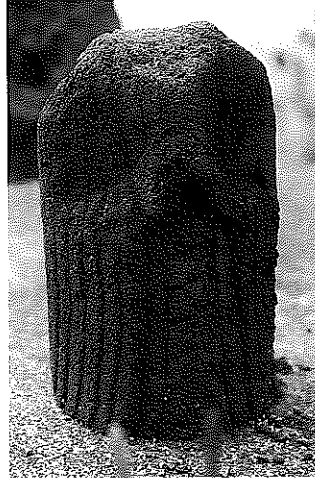
51-14 地藏菩薩



51-13 地藏菩薩



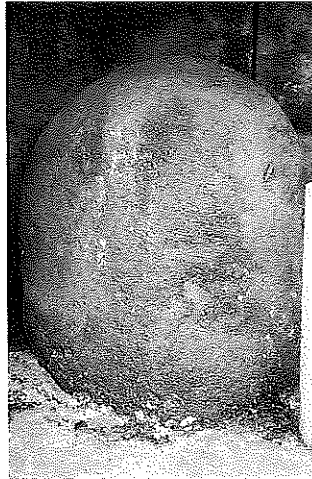
51-18 道祖神



51-17 地藏菩薩



51-16 順礼供養塔



54-2 石造物 (不明)



54-1 馬頭観音



53 馬頭観音



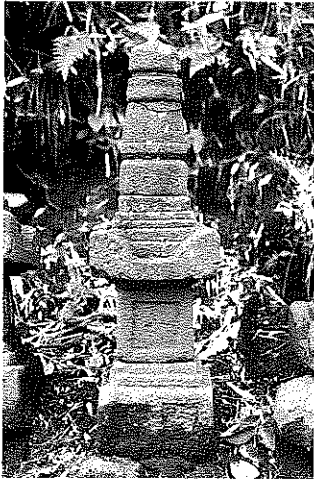
55 唯念名号塔



56-1 五輪塔



56 深良2018番地 土屋氏邸内



56-4 宝篋印塔



56-3 宝篋印塔



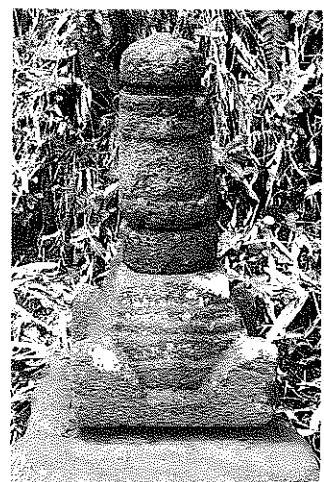
56-2 宝篋印塔



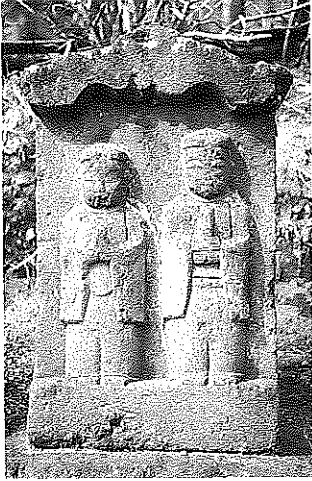
56-7 五輪塔



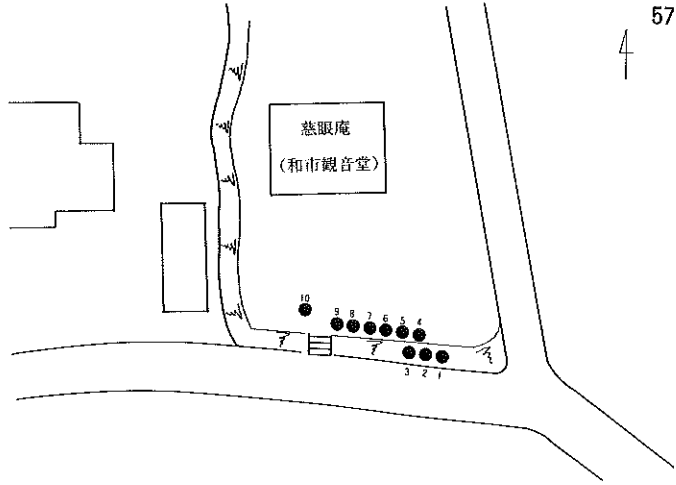
56-6 五輪塔



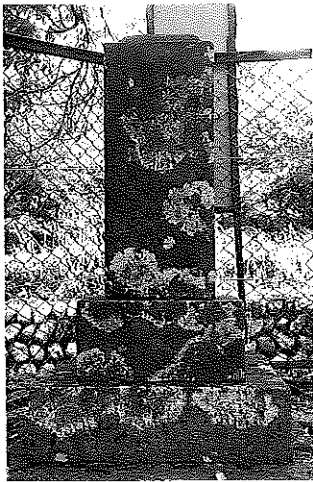
56-5 宝篋印塔 (部分)



57-1 道祖神



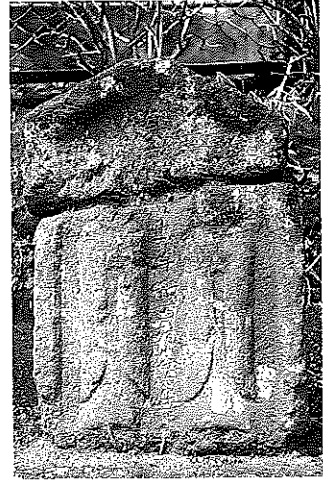
57



57-4 順礼供養塔



57-3 唯念名号塔



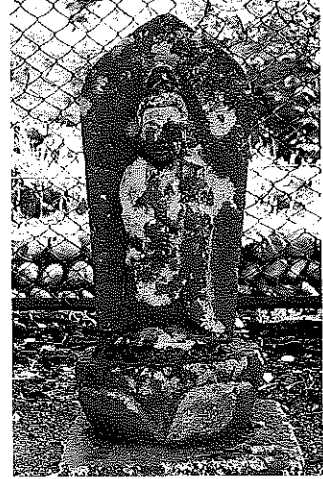
57-2 道祖神



57-7 順礼供養塔



57-6 庚申塔



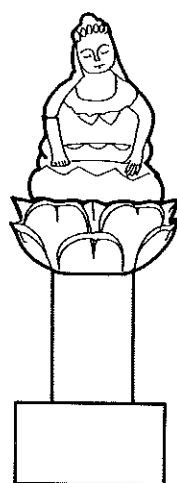
57-5 順礼供養塔



57-10 手洗石



57-9 廻国塔



57-8 順礼供養塔



60-1 道祖神



59 馬頭観音



58 馬頭観音



60-4 順礼、順拝供養塔



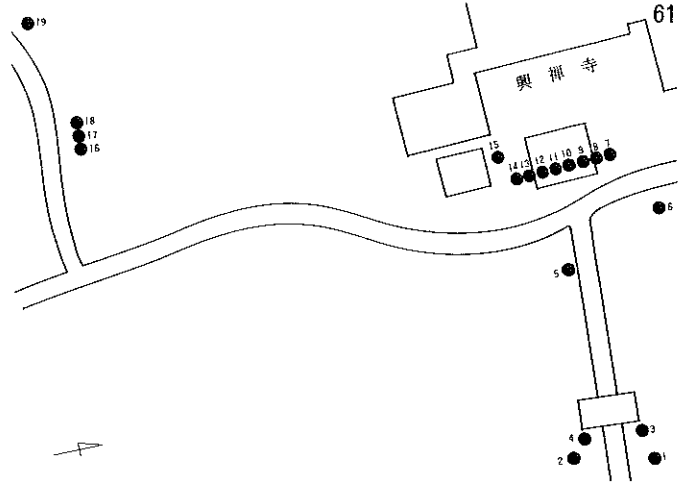
60-3 馬頭観音



60-2 庚申塔



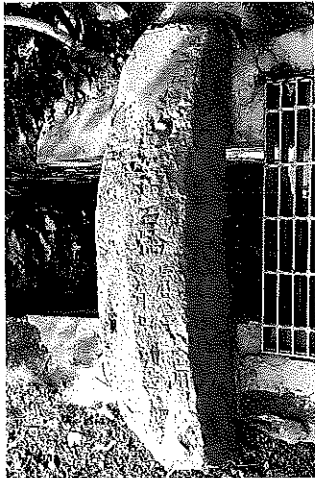
61-1 結界石



61-2 万靈塔



61 興禪寺・桜門



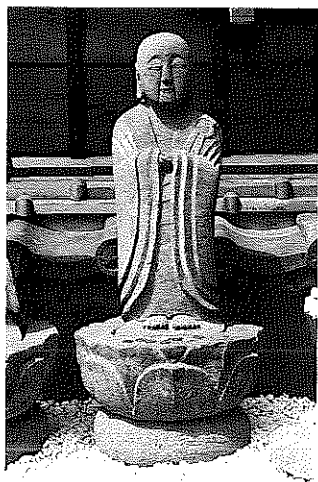
61-5 石橋供養塔



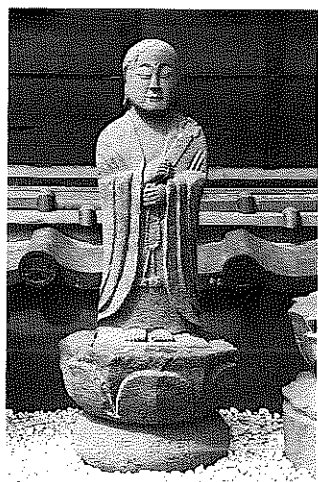
61-4 石灯籠



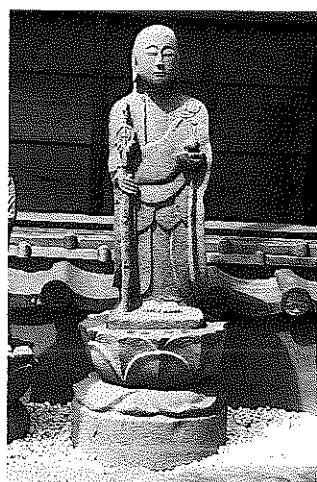
61-3 石灯籠



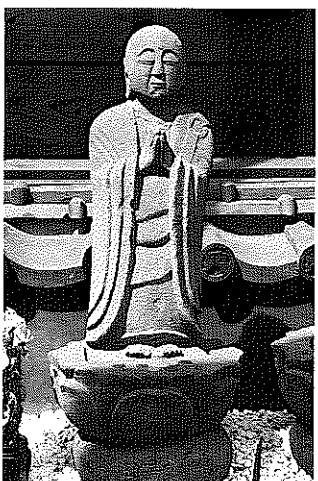
61-9 地藏菩薩



61-8 地藏菩薩



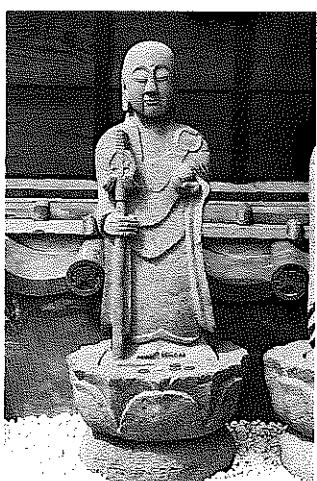
61-7 地藏菩薩



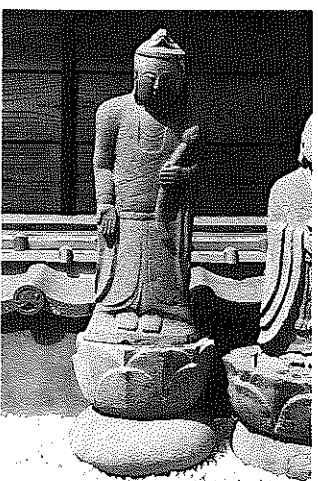
61-12 地藏菩薩



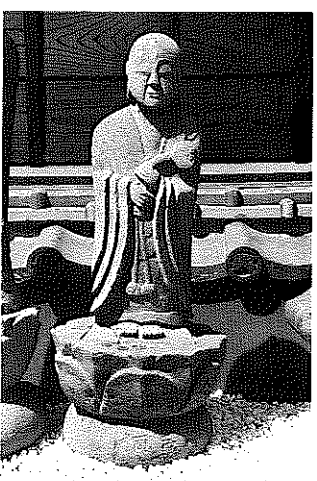
61-11 地藏菩薩



61-10 地藏菩薩



61-14 聖觀音



61-13 地藏菩薩



61-17 読誦塔



61-16 写経塔（一石経塔）



61-15 写経塔（法華塔）



61-19 宝篋印塔



61-18 五輪塔



63 道祖神



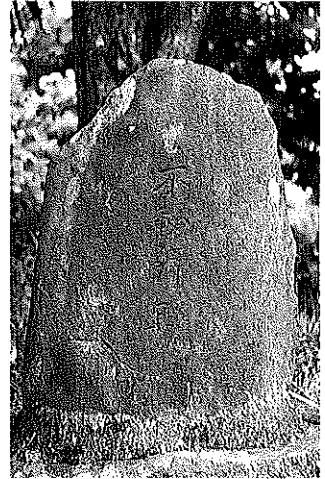
62 馬頭観音



66-2 石灯籠



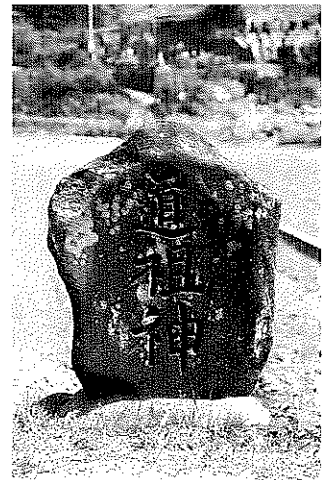
66-1 石灯籠



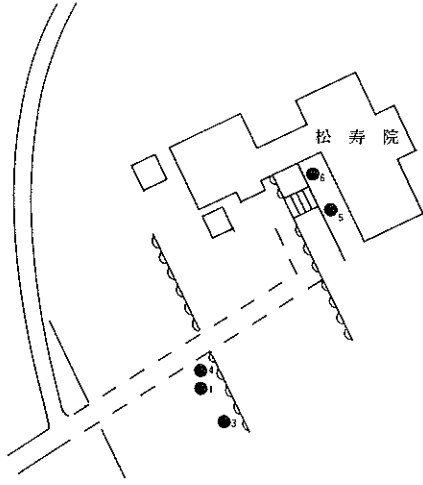
65 不動明王



67-2 順礼供養塔



67-1 道祖神



68-4 石幢 (部分)



68-3 地蔵菩薩



68-1 万靈塔



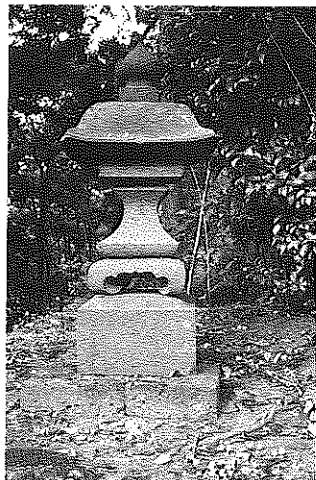
68-6 石灯笼



68-5 石灯笼



71 馬頭観音



69-2 石灯笼 (部分)



69-1 石灯笼



72-2 道祖神



70-2 唯念名号塔



70-1 道祖神



73-3 馬頭観音



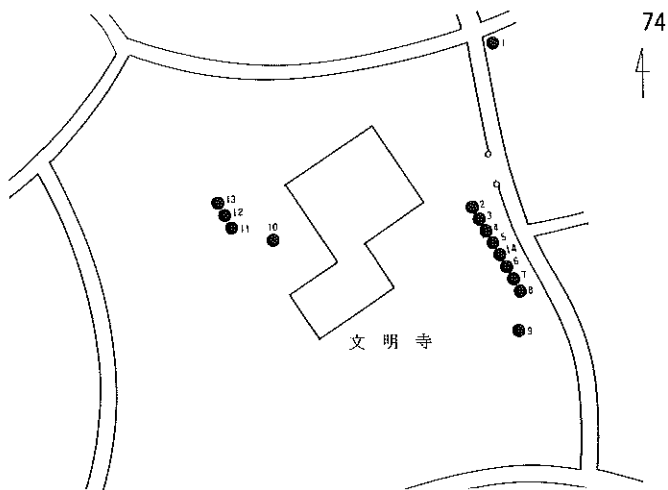
73-2 馬頭観音



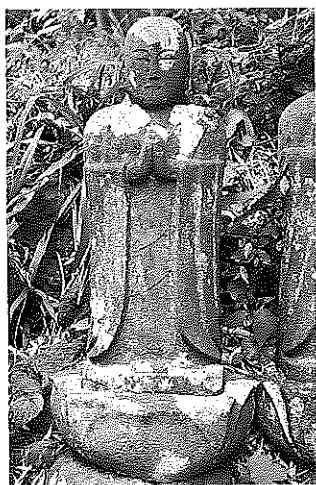
73-1 馬頭観音



74-1 万壘塔



74-4 地藏菩薩



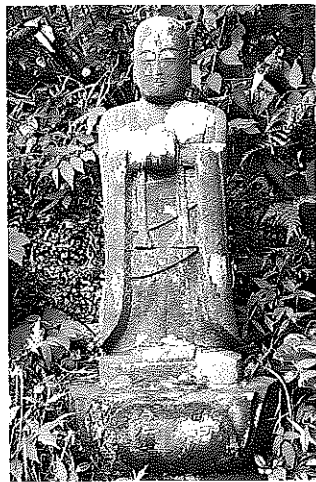
74-3 地藏菩薩



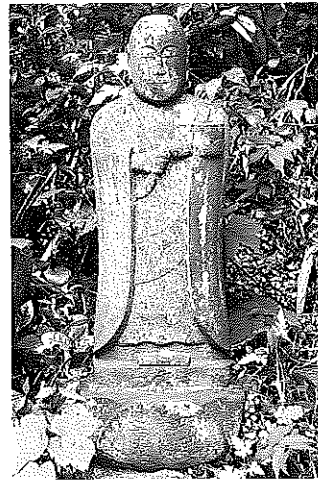
74-2 地藏菩薩



74-7 地藏菩薩



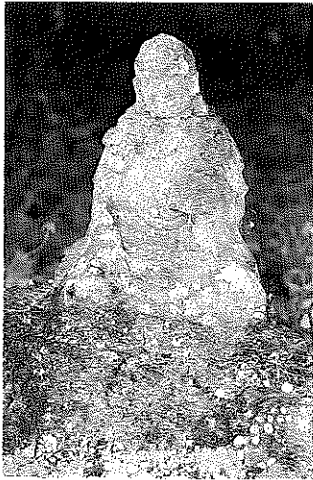
74-6 地藏菩薩



74-5 地藏菩薩



74 文明寺境内



74-10 羅漢



74-9 写經塔 (大乘妙典石經塔)



74-8 地藏菩薩



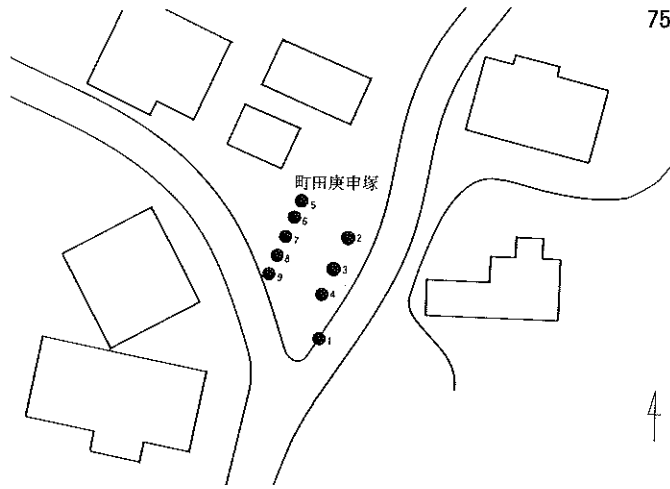
74-14 聖観音



74-13 羅漢



74-11 羅漢



75-3 石灯笼 (部分)



75-2 石灯笼 (部分)



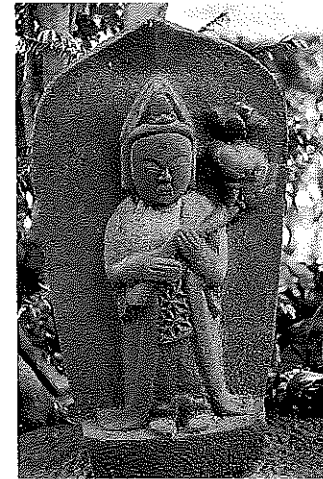
75-1 牛馬供養塔



75-7 庚申塔



75-5 観世音菩薩



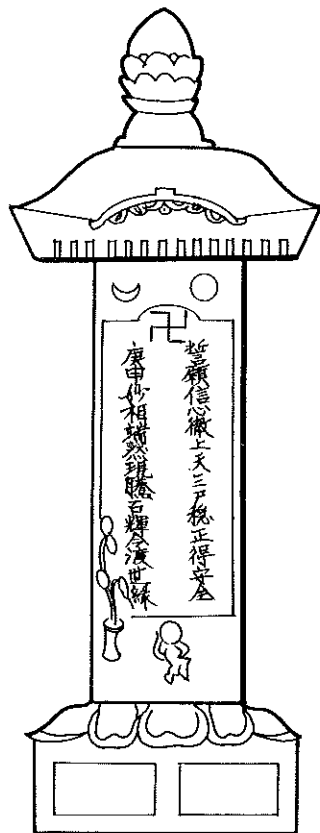
75-4 順礼、順拝供養塔



75-9 石造物 (不明)



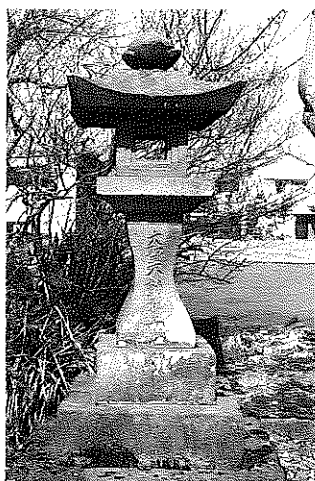
75-8 順礼供養塔



75-6 庚申塔



77-1 石灯笼



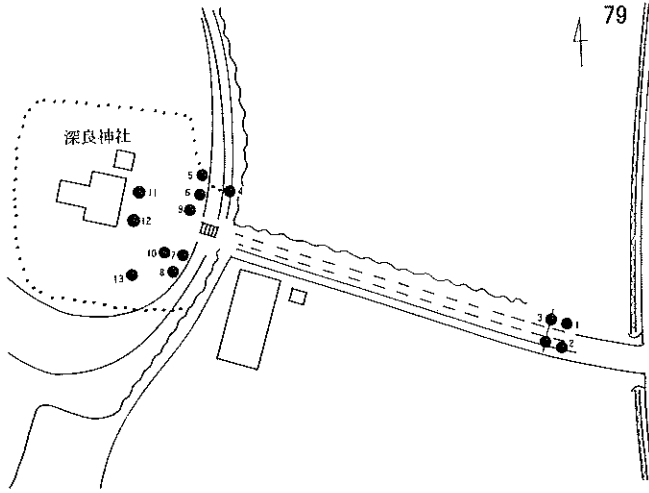
76 石灯笼



77-3 鳥居



77-2 石灯笼



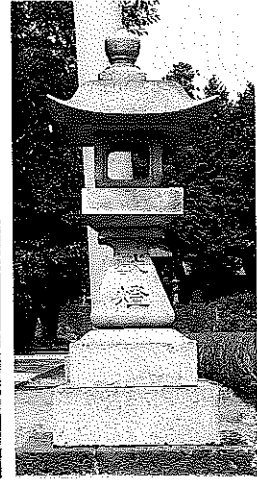
78 碑 (町道改良)



79-3 鳥居



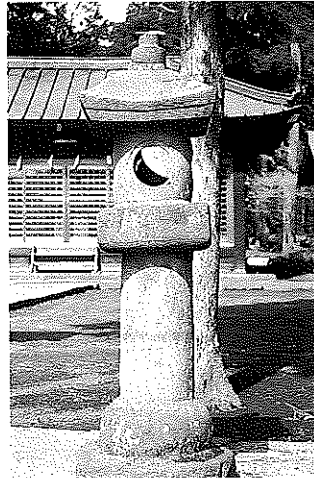
79-2 石灯笼



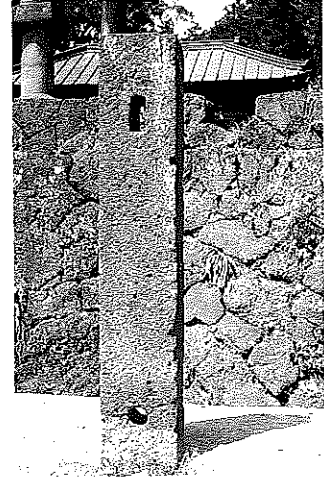
79-1 石灯笼



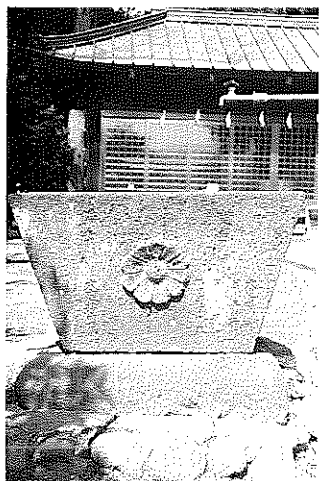
79-6 石灯笼



79-5 石灯笼



79-4 織建



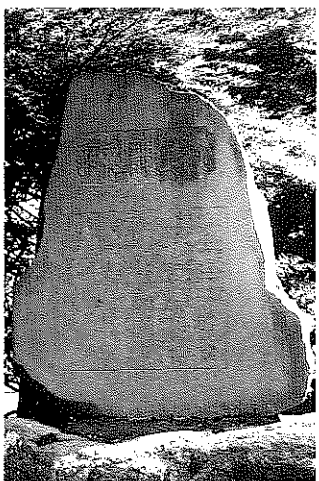
79-10 手洗石



79-8 石灯籠



79-7 石灯籠



79-13 碑 (神社縁起)



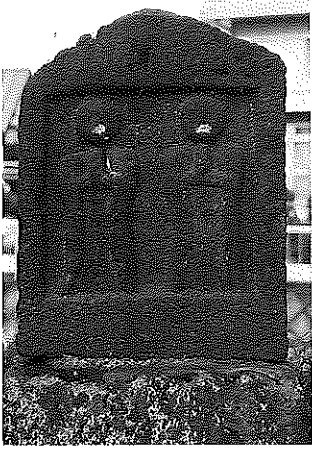
79-12 狛犬



79-11 狛犬



80 馬頭観音



81-1 道祖神



81 震橋



81-4 石橋供養塔



81-3 馬頭観音



81-2 地藏菩薩



82-3 秋葉山供養塔



82-2 碑 (永代常夜燈)



82-1 常夜塔

深良地区Ⅱ石造物調査表

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
38	馬頭観音	舟型立像		65×27	(正) 遠道 拾月吉日 (備考)
39-1	鳥居(部分)			20×46	(基礎正) 奉納 一瀬倉次郎 (亀服一対)
39-2	手洗石	自然石	昭和7(一九三二)	77×86	(正) 奉納 切久保 一之瀬倉次郎 昭和七年十一月廿日
40	馬頭観音	自然石	昭和6(一九三一)	50×21	(正) 馬頭観世尊菩薩 昭和六年四月吉日
41	廻国塔	自然石	元文5(一七四〇)	163×50	(正) 大日本靈佛靈社奉納一乘妙典 天下和順 日月清明 六十餘州廻國供養 元文五庚申稔十一月 願主堂所 西營道入(花押)
42-1	道祖神(单体)	浮彫座像		63×34	(舟型) 下部欠落・風化
42-2	道祖神(单体)	舟型座像		84×47	
43	馬頭観音	舟型	昭和12(一九三七)	64×25	(正) 馬頭観世尊菩薩 昭和十二年二月吉日 松井

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
44	諸神(地神)	舟型	昭和11(一九三六)	53×24	(正) 姫金神 昭和十一年三月二十五日 加藤角二郎立
45	馬頭観音	舟型	昭和14(一九三九)	61×22	(正) 馬頭観世音菩薩 昭和十四年 三月十八日 羽田勘三建立
46-1	敷石供養塔	丸彫座像	宝曆13(一七六三)	121×41	(正) 子安観音大菩薩 敷石建立為供養也 宝曆十三未天 十一月十八日 (右) 願主 好譽善心 (左) 施入 當村男女 (聖観音)
46-2	名号塔(祐天名号塔)	櫛形角柱	寛延1(一七四八)	224×46	(正) 南無阿弥陀仏 祐天(花押) 僧上寺前大僧止八十二歳 (左) 當寺十一世 定蓮社禪譽祐林代 (背) 願主方與西救 施入當村中 作者 信易住池上市良兵衛 同留 伊門 (右) 寛延元年戊辰檢冬十月十五日造立
46-3	写経塔	山形角柱	安永9(一七八〇)	171×31	別記24(108頁)
47	庚申塔	笠唐破風角柱	天和3(一六八三)	168×51	別記25(109頁) (三猿浮彫)
48-1	力石	自然石		32×49	(正) 三十三貫
48-2	道祖神(単体)	舟型立像		71×30	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
49-3	碑 (支那事变戦歿勇士供養塔)	自然石	昭和15 (一九四〇)	252 × 72	別記27 (109頁)
49-2	石灯籠	灯籠	昭和15 (一九四〇)	137 × 49	(正) 献燈 在日法人 □口長大庭房雄 南堀山本大介 市場小林薫灯 (背) 前村議増田房雄 切久保松井順平 皇紀二千六百年記念
49-1	石灯籠	灯籠	昭和15 (一九四〇)	134 × 49	(正) 献燈 現村土屋平治 全大庭寛良 全勝又能太郎 上丹勝又久俊 (背) 切久保羽田今治 皇紀二千六百年記念 (火袋欠落)
48-6	庚申塔	等唐破風 角柱	寛文10 (一六七〇)	163 × 56	(正) 庚申供養塔 (右) 寛文十曆 戊九月六日 造立之願主二十五人 (左) 寛政十二年 庚申八月廿五日 再興之願主九人 (背) □石建立 巴道原 切久保中 并 若者
48-5	庚申塔	等唐破風 角柱、拔	享保9 (一七二四)	138 × 51	(右) 天下和順日月清明風雨以時 災勵以建國豊民安兵才無用 (左) 駿州駿東郡深良村願主八人 世安樂子孫繁昌衍者也仍而乾坤普利 (背) 干時享保九甲辰天十月十八日 (三猿くり拔)
48-4	唯念名号塔	自然石	明治12 (一八七九)	158 × 55	(正) 南無阿彌陀佛 切久保 念佛講中 八十八歳 唯念(花押) (右) 明治十二年卯年五月立之 (背) 發起人 小林平八 七八人 高田平七 横山林造 加藤善吉 石工 三宅嶋吉
48-3	順礼・順拝供養塔 (西・四・秩・坂・横)	自然石	延享3 (一七四六)	163 × 53	別記26 (109頁)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
50-1	順礼供養塔 (秩・西・坂と横堂)	山型角柱	正徳3 (一七二三)	99×31	別記28 (10頁)
50-2	万霊塔	舟型立像	文化11 (一八一四)	60×23	(正) 文化十一戊年 六月廿四日立之 (台座正) 無縁 法界 (舟型上部欠落)
50-3	順礼供養塔 (横堂)	角 等唐破風 柱	天和3 (一六八三)	171×54	別記29 (10頁) (一部欠落)
50-4	馬頭観音	舟型立像	天保□	60×27	(正) 天保□年□日一ノ瀬氏 (頸部割れ目)
51-1	馬頭観音	櫛 型 くり 抜	文政12 (一八二九)	81×26	(右) 文政十二年 丑八月吉日 (左) 遠藤原講中 (一部欠落)
51-2	道標	舟型立像	文政7 (一八二四)	77×25	(正) 右ハむらミチ 左ハ甲州ミチ (右) 文政七甲申年 九月吉日 (左) 施主 大庭勇助 (地藏菩薩)
51-3	唯念名号塔	自然石	嘉永3 (一八五〇)	147×72	(正) 南無阿彌陀佛 唯念 (花押) (背) 嘉永三庚戌年八月吉日 遠藤原念佛講中 世話人 大庭勇左衛門 大底治良吉 大関新左衛門
51-4	順礼供養塔 (西・秩・坂・横)	角 等唐破風 柱	享保9 (一七二四)	113×47	別記30 (10頁)
51-5	順礼供養塔 (西・坂・秩と横堂)	角 等唐破風 柱	元禄10 (一六九七)	166×50	別記31 (10頁)

51-14	51-13	51-12	51-11	51-10	51-9	51-8	51-7	51-6	番号
地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩	順礼供養塔 (西・坂・秩・横)	庚申塔	種類
舟型立像	舟型立像	舟型立像	舟型立像	舟型立像	舟型立像	丸彫座像	角 笏唐破風 柱	角 笏唐破風 柱	形状
						享保16 (一七三二)	正徳3 (一七二三)	元禄16 (一七〇三)	造立年
72×30	72×30	70×31	69×30	72×30	74×30	77×26	112×44	146×49	法量 (cm)
(正) 観音堂浄口	(正) 切久保念佛講中 一ノ世彦左衛門母	(正) 遠道原念佛講中	(正) 小見山儀七母	(正) 小林平八母	(正) 大庭勇左衛門母	(台座右) 享保十六年 辛亥四月 二十四日 縁空浄因 為菩提 (頭部補修)	別記33 (11頁)	別記32 (11頁) (三猿浮彫)	銘 文 (備考)




番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
55	唯念名号塔	自然石	慶応2(一八六六)	90×47	(正) 南無阿彌陀佛 唯念(花押) 井澤常七 妻八千代 (左) 慶應二丙寅年八月□日四□□	
54-2	石造物(不明)	自然石		33×27		
54-1	馬頭観音	自然石		38×27	(正) 馬頭観世音菩薩	
53	馬頭観音	浮彫立像	昭和5(一九三〇)	63×25	(正) 昭和五年六月 横山家之建	
52	宝篋印塔(部分)			62×11		(残存 相輪部)
51-18	道祖神(双体)	舟型立像		96×46	(台座正) 道祖神	
51-17	地藏菩薩	丸彫立像		29×18		(頭部欠落)
51-16	順礼供養塔(横)	丸彫立像	宝曆7(一七五七)	112×20	別記34(11頁)	(頭部丸石補修/聖観音)
51-15	石灯笼	灯笼	享保5(一七二〇)	123×42	(中台左) 増田孫衛門主 (中台背) 享保五庚子年 (中台右) 六月三日	(宝珠欠落)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
57 2	道祖神 (双体)	駒 型 抜	貞享2 (一六八五)	74 × 37	(正) 貞享乙丑年和田村各々等 (上部割れ目)
57 1	道祖神 (双体)	浮彫 立像		79 × 35	
56 7	五輪塔			41 × 18	
56 6	五輪塔			58 × 19	
56 5	宝篋印塔 (部分)			39 × 21	(残存 相輪・笠部)
56 4	宝篋印塔			68 × 23	(笠部欠落 相輪部割れ目)
56 3	宝篋印塔			70 × 23	
56 2	宝篋印塔			70 × 23	
56 1	五輪塔			58 × 22	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
57-10	手洗石	自然石	宝永2 (一七〇五)	27×47	(正) 宝永二年 西四月吉日 施主 (下部埋没にて判読不能)
57-9	廻国塔	自然石		76×31	(正) 奉納大乘妙典 天下太平 國土安全 願 (下部補修のため判読不能)
57-8	順礼供養塔 (秩・横)	丸彫座像	享保19 (一七三四)	135×38	別記35 (11頁) (角柱・台座の時期相違ノ如意輪)
57-7	順礼供養塔 (如意輪)	丸彫座像	宝永7 (一七一〇)	97×41	(台座正) 奉順礼横道 三十三所觀 世音之道場 奉納□功□為 記石□□□ □員以□ 供養者也 (台座左) 駿州駿東 深良村 大庭平左衛門 同多兵衛 増田傳左衛門 小澤長三郎 (台座右) 寶永七庚寅歳 八月吉日
57-6	庚申塔	自然石	元文2 (一七三七)	120×52	(正) 奉請書面金剛明王供養塔 元文二巳年 十一月吉日 願主 佐五右衛門 善太夫 又兵衛 傳左衛門 猶右衛門 民右衛門
57-5	順礼供養塔 (横堂)	舟型立像	元禄10 (一六九七)	89×30	(正) 横堂三拾三所元禄拾丁丑曆八月日 大悲觀世音同行七人二世安樂誓 (聖觀音)
57-4	順礼供養塔 (西・秩・坂・横)	角柱	天保6 (一八三五)	125×32	(正) 奉納 西国 秩父 坂東 横道 觀世音菩薩供養塔 (右) 天保六乙未歳八月吉日 (左) 施主和田 増田要左衛門 世話人同所 林彦三郎 同所 大庭民右衛門
57-3	唯念号塔	自然石	明治10 (一八七七)	187×56	(正) 南無阿彌陀佛 村内安全 八十八歳唯念(花押) 發起人井沢常七 大庭辰右衛門 (背) 和田講中南堀 世話人 横山林蔵 林傳平 小見山常蔵 大庭十右衛門 石工 西山園七 明治十丁丑年 三月立之

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
61 3	石灯籠	灯籠		152 × 56	(正) 獻燈
61 2	万靈塔	自然石	元禄4 (一六九二)	284 × 123	(正) ◎ 三界萬靈等 元禄四年 辛未三月念日 完法代立并諸日越
61 1	結石石	山型角柱	文政11 (一八二八)	211 × 31	(正) 不許輩酒入山門 (右) 文政十一戊子年夏結制日 (左) 二十五世養瑞叟代建寫
60 4	順礼・順拝供養塔 (善・秩・西・坂)	自然石	文化1 (一八〇四)	128 × 46	(正) 奉納善光寺 秩父 西國 坂東 供養塔 南堀 念佛講中 (右) 文化元甲子季九月吉旦
60 3	馬頭觀音	丸彫座像	宝曆12 (一七六二)	156 × 35	別記36 (12頁)
60 2	庚申塔	自然石	文政10 (一八二七)	176 × 94	(正) 庚申塔 (背) 文政十丁亥年 十月大吉祥日 南堀講中
60 1	道祖神 (単体)	舟型立像	明和7 (一七七〇)	61 × 40	(正) 明和七年寅 八月吉祥日 (顔面部風化)
59	馬頭觀音	橢型	大正6 (一九一七)	48 × 20	(正) 馬頭觀世音 大正六年九月 小見山甚作
58	馬頭觀音	自然石	文政7 (一八二四)	114 × 77	(正) 馬頭觀世音喜薩 (右) 文政七甲申年七月吉日 (背) 南堀 和田講中

61 12	61 11	61 10	61 9	61 8	61 7	61 6	61 5	61 4	番号
地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩 (六地藏)	地藏菩薩	不動明王	石橋供養塔	石灯籠	種類
丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫立像	丸彫座像	自然石	灯籠	形状
					宝曆13 (一七六三)		宝曆8 (一七五八)		造立年
87 × 23	88 × 23	90 × 24	86 × 23	89 × 24	113 × 26	50 × 30	87 × 20	155 × 56	法量 (cm)
(台座正) 新田中 (頸部補修)	(台座正) 二百文 俊碩 五百文 市場 文右衛門	(台座正) 南堀念佛講中 并 取持衆	(台座正) 遠道原中	(台座正) 町田中 (頸部補修)	(台座正) 施主膏村 男女等 願主 密用造立之者也 宝曆十三癸未年十一月廿四烏		(正) 石橋 宝曆八年 寅十月日 密用 新造	(正) 献燈 (左) 松井庄左衛門義為 同五兵衛常清	銘 文 (備考)

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
61 21	宝篋印塔・ 五輪塔混合			48 × 18	(残存) 宝篋印塔塔身・基礎 五輪塔(火輪部)
61 20	宝篋印塔・ 五輪塔混合			54 × 31	(残存) 宝篋印塔基礎 五輪塔(空・風輪部)
61 19	宝篋印塔			89 × 35	(基礎正) 開山 (塔身正)  (右)  (左) □ (背) 
61 18	五輪塔			65 × 31	
61 17	読誦塔	自然石	享保14 (一七二九)	61 × 37	(正) 奉請妙音大善 □万人之縁境成就因唱 彌陀名號百万遍謝施恩 願主 芳一座頭寛曠 享保十四己酉年十一月十日
61 16	写経塔 (二石経塔)	山型角柱	享保4 (一七二九)	103 × 27	別記38 (112頁)
61 15	写経塔 (法華塔)	等唐破風 角柱	享保4 (一七二九)	183 × 45	別記37 (112頁)
61 14	聖観音	丸彫立像		106 × 28	(背) □ 二月十六日 □ 早願童女豈浪 (頸部補修)
61 13	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		89 × 22	(台座正) 處々志シ之面々

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文	(備考)
67 1	道祖神	自然石		79 × 65	(正) 道祖神	
66 2	石灯笼	灯笼	平成5 (一九九三)	185 × 68	(正) 奉納 (背) 平成五年八月吉日 富士市今泉 大庭光義	
66 1	石灯笼	灯笼	平成5 (一九九三)	185 × 68	(正) 奉納 (背) 平成五年八月吉日 富士市今泉 大庭光義	
65	不動明王	自然石		56 × 36	(正) 不動明王	
64	石段袖石	山型角柱	寛政4 (一七九二)	28 × 14	(右) 施主南堀中 (左) 世話人 久左衛門 仙右衛門 寛政四己年 九月吉日 (二対)	
63	道祖神	自然石		75 × 35	(正) 道祖神	
62	馬頭観音	舟型立像	文政6 (一八二三)	55 × 24	(正) 文政六未年 八月吉日	
61 23	石造物 (不明)			33 × 26		(残存地・水輪部)
61 22	五輪塔 (部分)			49 × 32		

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
67-2	順礼供養塔 (坂・秩・西・横)	自然石	文化11 (一八一四)	107 × 57	(正) 奉納 百番 横道 供養塔 (左) 文化十一甲戌年十一月日
68-1	万霊塔	角柱	昭和59 (一九八四)	257 × 45	別記39 (11頁)
68-2	万霊塔 (部分)	自然石	元禄4 (一六九一)	37 × 71	(正)  (万霊塔一部)
68-3	地藏菩薩	丸彫立像	安永9 (一七八〇)	142 × 24	(台座正) 万人講 供養塔 再建立 町田若者 専左衛門 丞右衛門 嘉七 藤二良 □ 誉 兼松 作次郎 権右衛門 惣七 清左衛門 安永九子 六月廿四日
68-4	石幢 (部分)	单制六面	享保2 (一七一七)	78 × 37	(正)  先亡之 諸精霊等 賢行童子 秋林童女 兎一夢童子 生任童女 (台座正) 六地藏 施主 久根村 神戶又右衛門 同名長左衛門 皆 享保 酉 八月 神戶又右衛門
68-5	石灯笼	灯笼	宝永6 (一七〇九)	179 × 50	(正) 奉造立如來面石灯笼 (右) 奉供養東西百箇處巡礼成就回向 (左) 駿州駿東郡御厨小泉庄久根邑 神戶又兵衛 秋山三郎左衛門 (背) 豈宝永六己丑年六月十八日仰替代
68-6	石灯笼	灯笼	宝永6 (一七〇九)	176 × 50	(正) 奉造立如來面石灯笼 (左) 為 光養淨順信十三十七年 縁替妙順信女 三十三回忌 兩親菩提也 (背) 維時寶永六己丑歲七月朔日仰替代 (右) 信心施主駿勢駿東郡久根村窪田久右衛門 (火袋) 供久根窪田久作

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
73 1	馬頭観音	自然石	文政6(一八二三)	114 × 32	(正)奉請 馬頭観世音 文政六癸歳 未六月日 町田 講中	
72 2	道祖神(双体)	浮彫立像		87 × 37		
72 1	道祖神(单体)	浮彫座像		63 × 34		(風化)
71	馬頭観音	自然石	明治19(一八八六)	65 × 30	(正)馬頭観世音喜薩 明治十九年 七月吉日 請建 倉沢彦治良	
70 2	唯念名号塔	自然石	嘉永3(一八五〇)	164 × 57	(正)南無阿彌陀佛 (背)嘉永三庚戌年季春穀旦 念佛講中 世話人 松井庄左衛門 大庭源蔵 後藤仙左衛門 大庭平助 大庭庄兵衛 大庭仲蔵	
70 1	道祖神(双体)	駒型浮彫	天明6(一七八六)	53 × 33	(正)天明六年 牛八月吉日	(顔面部風化)
69 2	石灯籠	灯籠	明治7(一八七四)	160 × 68	(右)秋葉神社 (背)明治七戌年四月建之 (台座右)松井氏 (火袋欠落)	
69 1	石灯籠	灯籠	明治7(一八七四)	192 × 68	(右)琴平神社 (背)明治七戌年建之 (台座右)松井氏 (火袋補修)	

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文 (備考)
74-7	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		106 × 29	(台座正) 町田 若鷹
74-6	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		118 × 25	(台座正) 町田 徳左衛門 念佛講中
74-5	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		109 × 25	(台座正) 町田 若者中
74-4	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		100 × 24	(台座正) 上丹 重右門 おとし
74-3	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		105 × 24	(台座正) 秩父 志 南堀八人井 町田権左衛門
74-2	地藏菩薩 (六地藏)	丸彫立像		125 × 25	(台座正) 秩父 志 おちよ おつさ おはつ おきち おいね (台座右) 町田おせん 彦右衛門
74-1	万霊塔	自然石	元禄10 (一六九七)	147 × 61	(正) ○ 三界萬霊等 元禄拾丑二月日 文明四代現住祖林
73-3	馬頭観音	舟型	大正10 (一九二一)	73 × 25	(正) 馬頭観世音菩薩 大正十年九月 渡辺與三郎建之
73-2	馬頭観音	自然石	大正6 (一九一七)	70 × 41	(正) 南無妙法蓮華経馬頭観世音菩薩 大正六年 十二月建

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
75 2	石灯笼 (部分)	灯笼	明和8 (一七七二)	84 × 25 (竿)	(正) 庚申御齋前 明和八卯年 九月吉日 (宝珠・火袋欠落 笠部落下)
75 1	牛馬供養塔	自然石	宝曆6 (一七五六)	134 × 43	(正) 丑 牛馬供養塔 宝曆六丙子天 二月吉日
74 14	聖観音	舟型座像	寛政6 (一七九四)	139 × 39	(台座正) 須釜太右工門外二人志 (台座右) 時寛政六稔富山十四代安置 (台座左) 世話人 井草四郎
74 13	羅漢	丸彫座像		31 × 22	
74 12	宝篋印塔・ 五輪塔混合			49 × 20	(上から五輪塔空・風輪部、宝篋印塔笠・基礎部 相輪部落下)
74 11	羅漢	丸彫座像		29 × 22	
74 10	羅漢	丸彫座像		53 × 24	
74 9	写経塔 (大乘妙典石経塔)	等付角柱	文政8 (一八二五)	151 × 54	別記40 (112頁)
74 8	地藏菩薩	丸彫立像		85 × 17	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
77-1	石灯笼	灯笼	昭和3 (一九二八)	164 × 55	(正) 御神燈 (左) 御大典紀念 (背) 松井家第十六代建之 (右) 昭和三年十一月
76	石灯笼	灯笼	文政9 (一八二六)	203 × 73	(正) 大聖不動明王 (右) 石尊大権現 (左) 富士浅間大菩薩 (背) 文政九丙戌年五月 (台座正) 松井庄左衛門義為 村中
75-9	石造物 (不明)	円柱		93 × 46	(左) 町田 施主 惣左衛門 由左衛門 清左衛門 佐介 平七母 平左衛門母 源右衛門母 宗八 源六 四郎右衛門母
75-8	順礼供養塔 (西・秩・坂・新横道)	等唐破風 角柱、抜	安永9 (一七八〇)	146 × 53	別記42 (113頁) (如意輪)
75-7	庚申塔	自然石	元文4 (一七三九)	216 × 78	(正) ○ 庚申塔 元文四未年 十二月吉日 町田村中
75-6	庚申塔	等唐破風 角柱	寛文10 (一六七〇)	180 × 57	別記41 (113頁) (三猿浮彫)
75-5	観世音菩薩	櫛型	文化11 (一八一四)	85 × 32	(正) 観世音菩薩 文化十一戌天 六月吉日 深良村 施主 清蔵内
75-4	順礼・順拜供養塔 (秩・西・坂・横・善)	舟型立像	文化5 (一八〇八)	80 × 35	(左) 奉納 秩父 西国 坂東 横道 善光寺 供養塔 (右) 文化五戊辰年六月立之 (聖観音)
75-3	石灯笼 (部分)	灯笼	明和8 (一七七二)	80 × 25 (竿)	(正) 庚申御宝前 明和八卯年 九月吉日 (残存 竿・基礎部 笠部落下)

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
79-6	石灯笼	灯笼		165 × 63	(正) 奉獻 御寶前 (背) 十二月吉日 (左) 増田和泉正藤原祐貞代 (右) 彦子中 (笠破損)	
79-5	石灯笼	灯笼	享保16 (一七三二)	163 × 51	(正) 奉納神明宮御寶前石灯笼 (背) 維持享保十六辛亥年五月吉日 南堀 切久保 遠藤原 和田 (宝珠破損)	
79-4	幟建			162 × 29		
79-3	鳥居	神明型	大正11 (一九二二)	561 × 694	(右柱背) 大正十一年十月 建之	
79-2	石灯笼	灯笼	大正11 (一九二二)	193 × 75	(正) 獻燈 (背) 大正十一年十月 建之 (火袋補修)	
79-1	石灯笼	灯笼	大正11 (一九二二)	194 × 75	(正) 獻燈 (背) 大正十一年十月 氏子中	
78	碑 (町道改良舗装工 事竣功記念碑)	自然石	昭和45 (一九七〇)	148 × 83	別記43 (113頁)	
77-3	鳥居	神明型	昭和3 (一九二八)	263 × 325	(正面額) 天満宮 (右柱背) 御大典記念松井家第十六代建之 昭和三年二月二十五日	
77-2	石灯笼	灯笼	昭和3 (一九二八)	164 × 55	(正) 御神燈 (左) 御大典記念 (背) 松井家第十六代建之 (右) 昭和三年十一月	

番号	種類	形状	造立年	法量 (cm)	銘文 (備考)
81 1	道祖神 (双体)	駒 り 抜 型		78 × 44	
80	馬頭観音	舟型 立像	大正3 (一九一四)	65 × 32	(正) 大正三年一月建之
79 13	碑 (神社縁起)	自然石	大正2 (一九一三)	156 × 120	別記44 (14頁)
79 12	狛犬		昭和14 (一九三九)	143 × 54	(台座正) 奉納 (台座右) 昭和十四年七月十七日 野重十一将兵 同
79 11	狛犬		昭和14 (一九三九)	147 × 54	(台座正) 奉納 (台座右) 昭和十四年七月十七日 野重十一将兵 同
79 10	手洗石	箱 型	宝暦6 (一七五六)	58 × 91	(正) 庚申 講中 (家紋菊章) 大庭彈藏 同平治右衛門 同甚右衛門 小見山源六 大庭治郎左衛門 (左) 宝暦六丙子年 十一月吉日
79 9	鳥居 (部分)	六角柱	安永7 (一七七八)	30 × 80	(基礎右) 増田勇治良信純 (基礎左) 安永七戊二月日 (葦屋二対)
79 8	石灯籠	灯 籠	正徳6 (一七一六)	164 × 48	(正) 神明宮御寶前 (右) 奉寄進石燈籠 (左) 為願成就 町田村中 (背) 正徳六丙申五月吉日
79 7	石灯籠	灯 籠	文化5 (一八〇八)	163 × 61	(正) 奉獻 御寶前 (左) 世話人松井口左衛門政利 (背) 文化五戊辰年 (右) 摩子中

番号	種類	形状	造立年	法量(cm)	銘文	(備考)
81-2	地藏菩薩	舟型立像	寛政12(一八〇〇)	89×32	(正) 寛政十二庚申年 四月日 (右) 震木橋 世話人 鈴木常右衛門 大庭平左衛門	(備考)
81-3	馬頭観音	舟型立像		54×22		(舟型上部補修)
81-4	石橋供養塔	自然石	明和8(一七七二)	89×33	(正) 石橋 願主良樹僧兼深良村中 明和八辛卯十一月吉日 石工 信州高遠 北原□右門	
82-1	常夜塔	灯籠	文化7(一八一〇)	170×55	(正) 秋葉山 常夜燈 (右) 干時文化七庚申年四月 (左) 講中 (台座正) 鈴木常右衛門 大庭平七 横山武蔵 勝又源蔵 大庭庄兵衛 浅見作右衛門 瀧口藤吉 大庭林右衛門	
82-2	碑(永代常夜燈)	自然石	大正8(一九一九)	80×92	別記45(14頁)	
82-3	秋葉山供養塔	灯籠	文化15(一八一八)	198×54	(正面額) 秋葉山 (正) 文化十五戊寅歳 四月吉日	(笠破損)

別記24 写経塔

(正) 南無阿弥陀佛 稱名大會心行相續 念佛弘通佛力護念
決定往生一蓮託生 自他法界平等利益

(右) 大唐光明善導大師 日本吉水圓光大師 蘭譽秀閣上人

光譽詮珍上人 聞譽秀海上人 洞譽靈□上人
静譽慈海上人 門譽惠春上人 蘭譽義碩上人
吞譽察音上人 訪譽教隨上人 載譽直立上人

如譽教恩上人 清譽教導上人 水譽秀行上人
得譽秀妙比丘 譽譽忍從和尚 吞譽義歆和尚
(左) 大光院忍譽秀教上人 大僧正通譽頼秀上人
大僧正走譽蓮察上人 惠眼院□譽察□上人

寿技院順譽上人 圓從大和尚
浄土院廓譽上人 秀□大和尚
西安寺覺譽上人 滿秀大和尚

長圓寺樂譽上人察英大和尚

龍善寺敬譽上人慈孝大和尚

松寿院乾譽上人善別大和尚

(背) 六方如来舒舌證 專稱名號至西方

此功德塔下奉納 三部經石書寫之

唯稱沙門

長圓寺樂譽祭英

當寺覺譽滿秀

維時安永九庚子七月初八日道之

(台座正) 一切精靈 得法淨現法尼 雪心自鏡法尼

道譽自茲法子 光譽妙□信女 □譽定觀信士

尋譽觀國信士 □譽妙通信女 □妙心信女

□譽淨覺信士 □淨因居士 □生因大姉

□月幻法居士

(台座左) 智譽想念信女 □譽妙空信女 寂譽秘心信士

心譽明光信女 教運妙榮信女 □淨□和尚

時譽淨雲信士 □明譽安心法子 定譽教雲信女

□譽定受信士 心譽光蓮信士 □清蓮信女

□譽慕□信女

別記25 庚申塔

(正) 南開扶桑國 駿陽御厨領 群縣號深良 □信企願申

□清弘□埃 淨除奧只意 癸心□□行 是我侍庚申

(左) 穩心名淨我 故善根無量 其德看如山 志氣深似海

預當溝願時 衆財眼□少 住巷連石俟 世界壞共瀕

(背) 萬行成供養 天音付納受 □神加守護 陀佛阿呼

宜願民快樂 昌盛 至祝構

(右) 干時天和三癸亥年 霜月念四莫 願主 各各 誓首

(三猿浮彫)

別記26

(正) 順礼・順拜供養塔(西・四・秩・坂・横)

南無觀世音菩薩 延享三年寅十一月 敬白

(台座正) 廣瀬六郎左衛門 同人内 羽田縫左衛門 同人内

林左五右衛門 同人内 大場平左衛門 同人娘

増田孫右衛門母 同人妹

(台座右) 小林市兵衛 藤井治郎兵衛 杵山源左右衛門

杵山傳右衛門 小見山源六

(台座左) □屋平八郎 同人内 池谷景左衛門 松井武兵衛

勝又清六母 はつ

別記27

(正) 支那事変戦歿勇士供養塔 陸軍少将苦米地四謹書

供 町田志村龜吉 ⊕ 供 市場松井義雄

供 震橋古谷俊雄

(背) 昭和十五年十一月二十三日 一之瀬倉次郎建之

(台座正) 紀元二千六百年記念 遠藤原区長土屋登龍

切久保区長羽田彌三郎 深良村長小林聿

泉村長藤原重治 富岡村長湯山芳太郎

小泉村助役土屋喜一 世話人 現村謙勝又熊太郎

前村議 増田房雄 村井順平 羽田今吉 小林事書

(台座左) 圍垣奉納者 石脇鳥澤多郎 石脇鳥澤重平

南堀大庭種次郎 和田井澤米吉 上原室伏佐十

市場小野秀作 遠藤原勝又吉雄 切遠念佛講

原田屋勝又久作 御宿杉本啓作 御宿林清作

石脇勝又作藏 須釜勝又寅次郎 岩波湯山徳次郎

市場横山きく 念佛講世話人 勝又金次郎

瀧川藤吉 敷地奉納者 一之瀬勝太郎

(台座背) 乙女淵刻

別記28 順礼供養塔(秩・西・坂と横堂)

(正) 奉供養南無観世音菩薩

(右) 奉順礼 秩父 坂東 西国 百箇處

勝俣政右衛門 同名平六 大庭傳七

(左) 經曰 具一切功德慈眼視衆生福聚海無量是故應頂礼

奉巡礼横堂三十三処

大庭甚右衛門 華誉妙周内 杉山善四郎内方

(背) 駿州駿東郡御厨藍沢庄深良村 僭主 恭白

皆正徳三癸巳年十一月十八日

別記29 順礼供養塔(横堂)

(正) 修多羅曰 具一切功德慈眼衆生

(右) 福聚海無量是故應頂礼

石塔建立趣旨者横堂三十三ヶ処奉納順礼願望礼

(左) 石塔建立趣旨者横堂三十三ヶ処奉納順礼願望礼

若然者覽旅人現受安穩徳成就後生善処無礙也

(背) 天和三癸亥年霜月廿七日 深良村同行四人 施主敬白

別記30 順礼供養塔(西・秩・坂・横)

(正) 奉請観世音菩薩

(右) 駿州深良村住人順禮西國秩父坂東横堂観世音之道場

奉祈現世之穩後生浄土子孫繁昌者也

(左) 羽田儀助 加藤八左衛門 同甚右衛門 武井勝兵衛

大庭次郎右衛門 加藤善兵衛 同内 高田権右衛門娘

増田浅右衛門内 宮崎傳八 池谷与右衛門内

大底平六母 同妹力子 近藤加兵衛 同内

勝俣清三郎

(背) 干時享保九甲辰天十月日

別記31 順礼供養塔(西・坂・秩と横堂)

(正) 奉巡礼東西百箇所為二世安楽

西国 大場□右衛門 同行九人

西国 増田源右衛門 同行二人

(右) 一念阿弥陀佛即滅無量罪 大場助左衛門

林何兵衛 大庭次良右衛門 高田権右衛門

(左) 天下和順日月清明風雨以時 勝間田源右門

徳左衛門同人 孫右衛門内母 村田□左衛門

(背) 時元禄十丁丑天八月十二日

横堂 大場惣左衛門内 さい 駿劔御厨神山村

六左衛門同□ 須山村 芹沢八郎右衛門妹 たか

別記32 庚申塔

深良住深良村 勝間田孝右衛門 同人娘 坂東同行廿人

(三猿浮彫)

(正) 奉供養南無青面尊王

(右) 法本曰 常□□□覺悉世間光明

普照□□佛土一切世界 六種震□惣撰魔界動魔

宮殿衆添光□□□不歸伏悉

庚申待同行 大関伊左衛門 勝俣市郎兵衛

同名□兵衛 久□三左衛門 大庭次郎右衛門

(左) 經曰 佛言我哀愍汝等諸天人良甚 於父母念子念我施

比世間作 佛降化五惡乃而又善改惡拔生

死之苦含獲五德□□為之安矣 勝俣文四郎

池之谷與右衛門 大庭甚左衛門 羽田李左衛門

增田十兵衛 大庭平次郎

(背) 駿州駿東郡御厨深良村 肯元禄十六癸未年十一月下旬

別記33 順礼供養塔(西・坂・秩・横)

(正) 奉請觀世音菩薩

(右) 駿州深良村住人順礼西國坂東秩父觀音之道場奉祈今世

安穩後生善所子孫繁昌者也

(左) 西國坂東秩父 増田浅右衛門 同権太郎

梶原七左衛門 加藤善兵衛 高田権右衛門

横道 浅右衛門母 加兵衛女 権九郎内 彦左衛門内

(背) 正徳三癸巳年二月吉日 興禪寺現住白謙記

別記34 順礼供養塔(横)

(台座正) 横道供養 宝曆七丁丑天 八月十一日

(台座右) 願主 廣瀬六郎右衛門 同おたか 竹井傳六

羽田佐衛門母

(台座背) 勝又半内母 土屋元助母 増田平七

勝又勸兵衛母 小林平七 大庭甚衛門娘

(台座右) 願主 池谷辰之助母 羽田俎七母 大庭小七母

大庭次郎左衛門母

別記35 順礼供養塔(秩・横)

(上段角柱右) 奉順礼横道供養塔 寶曆五乙亥天

九月吉日 大庭治郎左衛門 伯母 大庭彈藏祖母

(上段角柱正) 大庭源五郎内 小見山源六 大庭源七母

文七母 大庭はつ 倉沢惣右衛門 井草平十郎

大庭源右衛門母

(上段角柱背) 西山彌左衛門母 秋元治郎兵衛母 宮川藤八

廣瀬惣七内 加藤八治衛門母 林喜右衛門母

土屋善左衛門

(下段台座右) 奉供養 秩父横道 観世音 菩薩

大庭源五郎母 大庭長右衛門

(下段台座正) 大庭平左衛門内 □藤作右衛門 同佐右衛門

渡邊十右衛門 土屋七兵衛母 鈴木八郎兵衛内

同角右衛門 谷木長兵衛内 信永大姉

(下段台座背) 小見山金左衛門 谷木傳兵衛門

谷木由右衛門 西山四郎兵衛内 同人内方

倉沢想右衛門 大庭源五郎内 大庭安右衛門内
松井庄藏内

(下段台座左) 茂右衛門 又兵衛娘 享保十九年甲寅春
三月吉日

別記36 馬頭観音

(正) 奉彫刻馬頭観音大士 仰冀寺内繁昌當所信 男信女等
除災與樂并 牛馬往来堅固祈攸 施主當村南堀連中其
之外志面々造立焉者也

(左) 寶曆十二壬午天 八月十□一鳥
願主 現住興禪寺 密用代

別記37 写経塔(法華塔)

(正) 法華塔

(右) 聚砂為塔事無虚況是 一行一禮書造建浮屠納

經石雨華乱墜滿牛車

(左) 達山上座聚小石収一 行一禮之恭敬書写法

華予繫一個贊其盛事

(背) 享保四己亥年九月三日 書写比丘 達山感通
駿州深良興禪寺 見住牧巖誌

別記38 写経塔(一石経塔)

(正) 一石経塔

(右) 當寺石經者不知如時何人□焉写亦未許客置植□之□
石經□始婦鳥有矣予備以来追莫菩賢而捨□伏集経塔□

有田鳥丘墳墓柱善之間今至若干□終蓋昔日安置之求之
一者乎是塵世遷變山川帶礪之

(背) □□不足経而聖教書寫之功勞泯滅至如是者□集銘記之
□□来也故予補昔人之□如而命石經造建経塔誌其梗根
以圓不朽只願□靈水鎮山門住□便被災障消除吉祥如意
共成佛道矣

(左) 享保四己亥年一月八日
駿州深良靈龜山興禪寺 見住牧巖自諫誌

別記39 万霊塔

(正) 一切精靈 衆得苦離 松寿院 月光山 源空寺

(右) 元禄四年乘誉上人建立の三界万霊塔 式百九拾參年の
永き歲月撰化し給えども度重なる震災に破砕し哀れな
りしが。第廿六世法誉光雲感得乘誉上人が書を石工

丸誠石材が技を以って新塔に彫琢し萬霊佛果の為再建
す。沙内 維持昭和五十九年五月五日然阿光雲

(背) 南無阿弥陀佛 元禄四辛未年
卯月廿五日

別記40 写経塔(大乘妙典石経塔)

(正) 大乘妙典石経塔

(左) 大乘妙典經者右佛也尊丘正舍城一切衆生 所轉生老病
死憂悲苦惱而不知不覺招墮□之 業報佛憐之而種々之
以方便壁論之旨而演說 四諦等十二因縁等之法而□會
解脱衆生若縛 雖然其意深遠而了解者稀也恰如見慈母

小兒 矣余觀見是流淚難止幸爰小石之施主一色也

渡邊氏之得善妙典經老部拜寫今造立宝塔 永敬令衆生
拜佛舍利伏願 帝白與佛日齋明

(右) 天心與人心俱潔五風不鳴技十兩不破塊蔬菜 繁滋禾穀

豐登國士昇平黎民快樂十方施主萬 難消滅千秤來臻更
祈山門鎮靜内外□安峴 前清衆道□康寧四智圓明如意

吉祥

銘曰

諸佛本懷 成佛直道 □相真如

圓頓妙宝 一字敬礼 書石上葛 十界照□ 夜月朝泉

蠢動含靈 誰不塵掃 同導有情 齋臻覺鑄

(背) 維時文政八□舍乙酉孟夏吉日 駿東深良山□外庵

願主 禪隱子謹誌 一色村經石施主 渡邊五右衛門

有緣無緣為菩薩 萬人講中信施

別記41 庚申塔

(正) ○ 誓願信心徹上天三尸穩正得安全

○ 庚申妙相端然現瞻古輝今渡世緣

(右) 這尔依頼力諸天加守護三尸矣途如是庚申

信心之輩現世除貧苦為吉祥來度轉罪業得

解脱必然况願主之人々内除七難外生七福人身

堅固而子孫繁榮矣

良久而云逆行順行忽相當戸戸門門成大吉

放下 筆頭 小沢市左衛門 大場三左衛門

同次郎衛門 同権左衛門 大庭源之丞

(左) 竊以 大日本国東海道駿州駿河之郡鮎沢庄深良江

南堀町田兩村之居住三宝弟子道俗信男信女
等為二世安樂勵善心累年一歲六度奉待

庚申矣加之今月今日企石塔造立志放出屋稟

財糧設大齋会以請清淨緇祇修諸經咒乎

大場次郎左衛門 松井甚兵衛 井草平十郎

藤井惣左衛門 同四郎左衛門

(背) 維時寛文拾庚戌 天晚秋六日 願主等 敬白

植松太郎兵衛 鈴木五郎兵衛 岩元久左衛門

同作兵衛 井草德右衛門 渡戸九兵衛

別記42 順礼供養塔(西・秩・坂・新横道)

(右) 安永九庚子年

西国 秩父 坂東 横道 平右衛門 宗七郎

常八祖母 権四郎内 助左衛門娘 彦内母 助八

(左) 六月吉日 町田 念佛講中

新横道 常八祖母 四郎右衛門内 甚左衛門母

要右衛門母 助八郎内 彦内母 源六母

別記43 碑(町道改良舖装工事竣功記念碑)

(正) 竣功記念碑 町道改良舖装工事

起工昭和三十九年九月一日 竣功昭和四十四年十二月

(背) 用地無償提供者氏名

裾野岩波線 松井謙一 大庭房雄

町田震橋線 松井謙一 藤井美和 芹沢和夫

渡辺峰雄 大庭幸一 勝又茂重 後藤智惠穂

大庭知恵子 倉澤秀雄 文明寺 水口金龍 小沢佐一

古谷利雄 小沢則親 大庭定雄 勝又久作

町長 小林秀也 遠藤佐市郎 区長 植松貞夫

藤井美和 大庭満 古谷敬作 渡辺彌一 野際清澄

昭和四十五年一月 裾野町深良村震区区长 倉沢信

別記44 碑（神社縁起）

（正） 邨社深良神社記

明治三十有九年丙午八月官定神社併合之制當時本邨南

堀鎮座之三社合祀於邨社神明宮三社者則八幡宮淺間社

及天神社也 卯十有三年庚戌十月請官築殿宇設拜殿奉

財產若干以為社有永供祭祀之資於此乎神社合祀之事全

成 大正二年癸丑二月奉称邨社深良神社以其歲五月二

日列神饌幣帛供進之神社 嗚呼邨民諸氏之勞可謂大矣

詩曰以享以祀以介景福請余辭曰

爰相神地 以遷三祠 敬虔不懈 祭祀以時

神靈赫赫 稜威無私 拳邨信奉 永享其禧

大正二年九月

從五位勲六等矢田部盛次撰

（背）

駿東郡深良邨深良 邨社深良神社

氏子總代大庭政次郎 井澤綱次郎 勝又菊次郎

大庭小次郎 横山乙吉 大庭義真

監督者松井謙治 社掌清水寛良 氏子中

大正貳年十月建之 石脇 志村龜吉刻

別記45 碑（永代常夜燈）

（正） 奉納 永代常夜燈 井上園了（落款）

寄附芳名 一、金拾圓也大庭捨次

一、金五圓也大庭儀平 一、金五圓也大庭傳吉

一、金參圓也大庭齊修 一、金參圓也勝又勝太郎

一、金參圓也大島岩吉 一、金參圓也西原友吉

一、金參圓也勝又彌太郎 一、金參圓也大庭松次郎

一、金貳圓五拾錢也大庭幹

一、金貳圓五拾錢也古谷利雄

一、金貳圓五拾錢也後藤智惠穂

一、金貳圓五拾錢也田村治代 一、金貳圓也勝又勘次

一、金貳圓也渡邊慧吉 一、金貳圓也大庭幸作

一、金貳圓也瀧口鐵次郎

一、金壹圓五拾錢也淺見惣平

一、金七圓也町田 震橋 最寄中

（背） 大正八年五月五日建之 世話人大庭捨次 大庭傳吉

石工幡野富藏

裾野の石造物点描

切久保 「祐天名号塔」(46-2)

深良、切久保の西安寺の、御殿場線を挟んだ西側に、かつての西安寺への参道が残っており、その入口付近に「祐天名号塔」がある。これは江戸時代中期の、浄土宗の高僧祐天が書いた六字名号（「南無阿弥陀仏」の六字）を刻んだ石塔である。

碑面の正面には祐天独特の六字名号があって、その脇に「増上寺前大僧正八十二歳」とあるので、この名号は、祐天が病気で増上寺大僧正を引退してから四年後の、八十二歳で入寂したその年に書か



切久保西安寺「祐天名号塔」

れた名号であることがわかる。

また、碑の他の面には次のように記されており、この石塔造立の事情をうかがうことができる。

「当寺十一世定蓮社禪譽祐林代

願主 方與西求 施入 当村中

作者 信州住池上市良兵衛 同留 伊門

寛延元戊辰稔冬十月十五日造立

西安寺の十一世祐林は、その名前から祐天の弟子であったと思われる、その祐林の代理として方譽西求（僧侶、どのような人物か不明）が中心となって村人たちがこの石塔を造った。制作は信州高遠の石工池上市良兵衛およびその仲間であろう伊門（伊右衛門か）、祐天の死から三十年後の、一七四八年（寛延元年）の造立とある。

ところでこの石塔がどういう点で注目されるのか。ひとつは祐天の影響力がこの裾野の地に及んでいたことを示すものであること、また西安寺が、この時期には芝増上寺の末寺となっていたことを示していること、の二点があげられよう。

まず第一の祐天の影響力についてであるが、一言でいえばかれは当時にあつてはめずらしく民衆のなかに飛び込んで来た僧侶であったといえるであろう。明蓮社願譽と号した祐天（一六三七〜一七一八）は、十二歳から江戸増上寺で学業に専念し、五十歳になって地方諸寺遊歴の旅に出て民衆のなかに入り、念仏布教につとめた。その後江戸に戻った後も、念仏生活のかたわら六字名号を写すことと日に数百幅という民衆教化の生活を続けたのである。一方、江戸

城に召されての法門講話を通じて、第五代將軍綱吉、第六代家宣の帰依を受けるようになり、やがて家宣の命により祐天は増上寺第三六世大僧正に任ぜられた。鎌倉や奈良の大仏の修補宮繕をはじめ、多くの廃寺を復興させたのはこの時代であり、そうした中で民衆から將軍まで多くの人から「生き仏」と崇敬されたのである。

西安寺の名号塔は、祐天が八十二歳で没するまでに書写した、おびたしい名号のうちの一枚をもとにして造られたものである。だがそれがこの裾野で、深良の村人たちによって施入されるに至るのは、祐天の没後もこの地で祐天念仏を布教しようとしたかれの教説の熱心な継承者がいたからであった。祐林、方與西求だけではない。この祐天名号塔の南側にもう一つの名号塔がある。称名大会心行が行なわれ、それに参加した近隣の浄土宗の寺院の僧侶と、村人たちの名前がびっしりと刻まれている。その塔の六字名号は、祐天の筆蹟ではないが、明らかにそれを手本にしたものと思われ、祐天の教えのみならず、その筆跡まで継承しようとしていた形跡を見ることができ、祐天の影響力の深さを知ることができるのである。

つぎに増上寺と西安寺の關係についてである。

江戸時代になると幕府の宗教統制は強まった。全国の寺院は本山末寺の關係に系列組織化され、寺社奉行の下、諸宗諸寺院法度によって規制された。また民衆はいずれかの寺院の檀徒となるよう定められ、かくしてまず寺院僧侶、次いで信徒すなわち民衆が幕藩体制へ組み入れられていった。その結果、十八世紀ごろまでには近世檀家制度が確立していったと考えられている。

裾野の各寺院ではいつごろ、どのようにして本山・末寺の系列ができたのか、かならずしも明瞭ではない。

浄土宗大森山西安寺（注1）の場合、本山とされる増上寺は家康の援助によって大伽藍が造られ、徳川家の菩提所となるなど権力への接近をはかり、幕権によって宗内大本山の住持権を得ると、その後浄土宗六大本山の一つ、江戸における念仏布教の中心寺として、やがては関東十八檀林の首座として、一門の統制、僧侶の教育機関として大きな力をもつようになっていくのである。西安寺は、幕府が諸宗諸本山にその末寺を書き上げさせた寛永の末寺帳に、増上寺の末寺と登録されており、またこの祐天名号塔の刻文によって寛延年間（一七四八年以降）に確かに西安寺が増上寺の末寺となっていたことを確認することができる（駿東郡誌によれば寺領十石六斗が給されたと記されている）のである。

（注1）開山は平安末期、天承年間甲斐・藍沢の国司として藍沢に住んだ藤原惟康、中興開基は十六世紀足利持氏の下的小田原城主大森氏頼と伝承されている。

参考文献 豊田 武「日本宗教制度史の研究」

（石田 義明）